

第六回全国高校生金融経済クイズ選手権
エコノミクス甲子園 報告書



特定非営利活動法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy

主催：NPO法人金融知力普及協会
エコノミクス甲子園実行委員会





ご挨拶 ————— 2

エコノミクス甲子園はこんな大会です! — 3

概要 ————— 5

各地方大会+参加高校一覧 ————— 6

全国大会 ————— 15

全国大会出場者感想 ————— 19

参加者アンケート ————— 31

事前学習教材紹介 ————— 32

メディア掲載実績 ————— 33

Special Thanks ————— 34





エコノミクス甲子園 第六回大会を迎えて

エコノミクス甲子園実行委員長
金子 昌資



さる2012年1月22日、多くの皆様のご協力、ご支援をもちまして、第6回エコノミクス甲子園全国大会を開催することができました。後援・協力を頂いた内閣府・文部科学省・金融庁、企業の皆様、各地方大会を開催いただいた金融機関の皆様、多種多様なご協力をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

今大会は東日本大震災を踏まえ、「東北の復興」をテーマに掲げた特別な大会でした。生徒たちがプレゼンテーションを作成、発表する「プレゼンテーションクイズ」では、「復興のためのソーシャルベンチャー企画の立案」という課題を設定いたしました。各チームとも高校生ならではの柔軟なアイデアで東北の復興について考え、審査員の方々も感心する素晴らしい出来のプレゼンテーションが仕上がりました。知識偏重のクイズ大会ではなく、広く物事を考える力を試す大会として、高い評価を頂いたことを嬉しく思っております。

2011年度は大震災の年であり、また世界に目を転ずればギリシャや中東でさまざまな危機が発生した年でもありました。いずれもその決着はついておりません。情報を読み解き、人生に活かす金融知力の重要性はますます高まっております。

このエコノミクス甲子園を通じて身に付けた金融知力が、高校生たちの今後の人生に活かされることを切に願います。これからも私たち金融知力普及協会は、若者たちが金融経済について学ぶ機会を提供し、日本の将来を背負って立つ人材を育成できるよう努力を尽くして参ります。

どうぞ今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い致します。



エコノミクス甲子園はこんな大会です!

1 ポスターや学校の先生に教えられて 出場を決意!

- ・ネットや携帯電話から応募
- ・参加は無料!



2 金融知力普及協会から送られてくる 事前学習教材で経済を勉強

- ・ファイナンス基礎 …………… 寄贈:シティバンク銀行
- ・ビギナーズのためのファイナンス入門 …………… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・これであなともひとり立ち …………… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・ライフステージで学ぶ銀行 …………… 寄贈:全国銀行協会
- ・ローン&クレジットのABC …………… 寄贈:全国銀行協会
- ・そんぼのホントフレッシュアーズガイド…………… 寄贈:日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ …………… 寄贈:日本証券業協会
- ・生活防衛のための災害対策ブック …………… 寄贈:日本ファイナンシャル・プランナーズ協会
- ・ほけんのキホン…………… 寄贈:生命保険文化センター



3 地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など
金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の
基礎知識や地元経済などについての問題
- ・筆記問題(50問)と早押しクイズで競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場



エコノミクス甲子園はこんな大会です!

日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供!
将来の日本をリードする人材の育成!



5 優勝チームはニューヨーク研修旅行にご招待

- ・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや
経済に関する様々な場所を見学



4 全国大会に参加

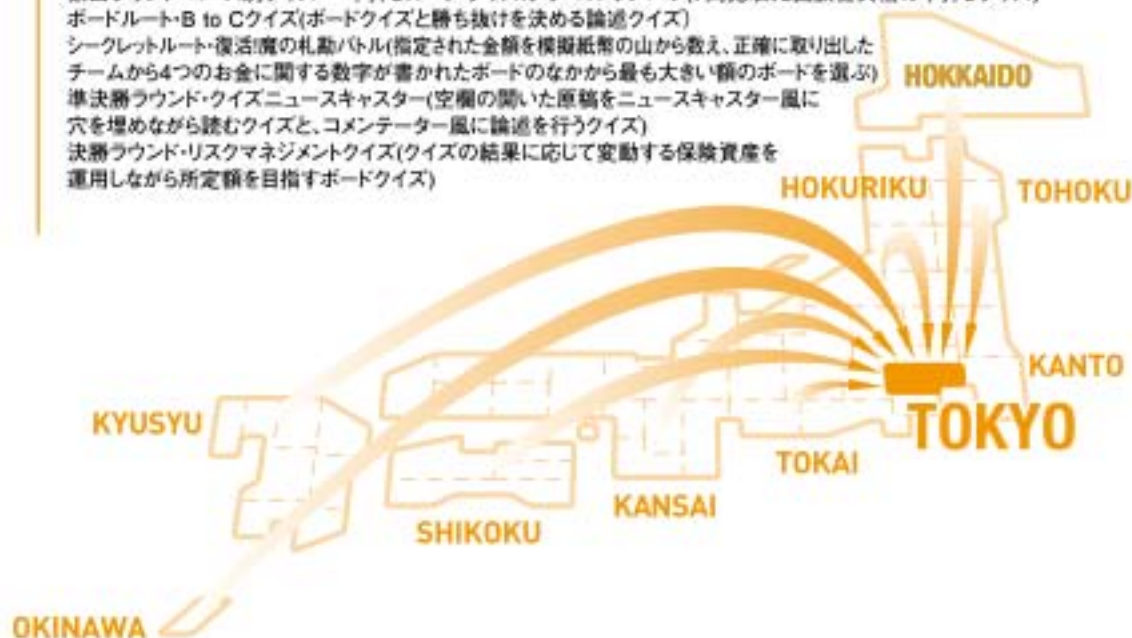
- ・経済用語をわかりやすく説明するスピーチクイズや
他チームと協力したプレゼンクイズなど、
より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む





概要 Summary

名称	第六回全国高校生金融経済クイズ選手権 「エコノミクス甲子園」
趣旨	社会に羽ばたく前の高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」をクイズを通して考えてもらうきっかけとするために開催する。
期日	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会 2012/1/22(日)10時00分～16時30分 金融知力普及協会 於)東京・お台場 東京国際交流館「プラザ平成」 ・地方大会 <ul style="list-style-type: none"> 2011/11/13(日)開催 山梨大会 山梨中央銀行 於)山梨中央銀行 研修センター 2011/11/20(日)開催 関西大会 リソナ銀行・近畿大阪銀行 於)リソナ銀行 大阪本社 2011/11/23(水)開催 愛媛大会 伊予銀行 於)エミフルMASAKI エミモール 1階 2011/11/27(日)開催 埼玉大会 埼玉りそな銀行 於)埼玉りそな銀行 さいたま営業部 2011/12/4(日)開催 <ul style="list-style-type: none"> 北海道大会 北海道銀行 於)北海道銀行 ほしみ研修センター 岐阜大会 十六銀行 於)十六銀行 本店3階 大会議室 静岡大会 静岡銀行 於)静岡銀行 研修センター 宮城大会 七十七銀行 於)七十七銀行 本店 2011/12/11(日)開催 関東大会 リソナ銀行 於)リソナ銀行 東京本社2階 リソナコミュニケーションプラザ 神奈川大会 横浜銀行 於)横浜銀行 本店 大会議室 石川大会 北國銀行 於)北國銀行 本店5階 大集会室 福井大会 北陸銀行 於)福井新聞社 風の森ホール 徳島大会 阿波銀行 於)阿波銀行 本店 大会議室 香川大会 百十四銀行 於)百十四銀行 本店 5階ホール 九州大会 西日本シティ銀行 於)NCBリサーチ&コンサルティング 2011/12/17(土)開催 秋田大会 秋田銀行 於)秋田銀行 本店10階 大会議室 2011/12/18(日)開催 <ul style="list-style-type: none"> 千葉大会 千葉興業銀行・千葉銀行 於)千葉興業銀行 本店7階 富山大会 北陸銀行 於)富山国際会議場 201・202号 愛知大会 愛知銀行 於)愛知銀行 本店 8階ホール 三重大会 百五銀行 於)百五銀行 研修所α 奈良大会 南都銀行 於)南都銀行 研修センター 中国大会 中国銀行 於)中国銀行 本店 3階大講堂 沖縄大会 沖縄銀行 於)沖縄銀行 本店 5階ホール 2011/12/23(金)開催 長崎大会 十八銀行 於)十八銀行 本店 10階会議室 鹿児島大会 鹿児島銀行 於)かざん会議with
主催	認定NPO法人 金融知力普及協会
地方大会主催	各地の金融機関有志
後援	内閣府、文部科学省、金融庁、週刊エコノミスト
特別協賛	ブルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
協賛	シティバンク銀行株式会社、ラッセル・インベストメント・グループ
協力	日本ファイナンシャルアカデミー株式会社、一般社団法人 全国銀行協会、社団法人 日本証券業協会、NPO法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会、金融広報中央委員会、社団法人 日本損害保険協会、公益財団法人 生命保険文化センター、イー・アクセス株式会社
地方大会内容	第一ラウンド・筆記クイズ(チーム戦、50問の四択一筆記クイズ、1問の近似値クイズ) 第二ラウンド・早押しクイズ(チーム戦)
全国大会内容	決勝ラウンド・ボード&ダブルアンサークイズ(決勝進出6チームによるボードクイズと勝ち抜けを決める答えが2つ以上あるクイズ) 第一ラウンド・クイズ!銀行員さんに聞きました (経済情勢、資産運用、マナー等について各地方銀行からお聴きいただいたスタッフにアンケートをとり、その結果を予測するクイズ) 第二ラウンド・筆記クイズ(個人戦、25問の四択一クイズ、15問の用語クイズ、5問の論述クイズ、1問の近似値クイズ) 第三ラウンド・プレゼンクイズ(5チーム合同によるプレゼンテーション) 第四ラウンド・コース別クイズ 早押しルートクイズ!ナナマルサンバツ(7問先取、3回誤答失格の早押しクイズ) ボードルート・B to Cクイズ(ボードクイズと勝ち抜けを決める論述クイズ) シークレットルート・復活魔の札勤バトル(指定された金額を模擬紙幣の山から数え、正確に取り出したチームから4つのお金に関する数字が書かれたボードの中から最も大きい額を選ぶ) 準決勝ラウンド・クイズニュースキャスター(空欄の聞いた原稿をニュースキャスター風に穴を埋めながら読むクイズと、コメントター風に論述を行うクイズ) 決勝ラウンド・リスクマネジメントクイズ(クイズの結果に応じて変動する保険資産を運用しながら所定額を目指すボードクイズ)





北海道大会

12月4日(日)開催

主催 北海道銀行
会場 北海道銀行 ほしみ研修センター

参加校一覧 北嶺高等学校、札幌光星高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道札幌国際情報高等学校、北海道札幌西高等学校、北海道札幌東商業高等学校、立命館慶祥高等学校

参加チーム数 25チーム(7校)

運営スタッフ感想 当日は悪天候となってしまいましたが、23チームが集まり活気溢れる白熱した大会となりました。特に早押しでは多くの生徒さんがアグレッシブにボタンを押していて、激戦が繰り広げられました。スタッフは営業店の職員を中心としたメンバーで、参加した生徒達と楽しく熱い時間を過ごしました。来年は参加チームを増やして更に大会を盛り上げていきたいです。



優勝チーム

北海道旭川東高等学校
チーダー旭東店



宮城大会

12月11日(日)開催

主催 七十七銀行
会場 七十七銀行 本店

参加校一覧 宮城学院高等学校、宮城県宮城野高等学校、宮城県仙台三桜高等学校、宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県仙台第三高等学校、聖ウルスラ学院英智高等学校、仙台白百合学園高等学校、東北学院高等学校

参加チーム数 29チーム(9校)

運営スタッフ感想 宮城大会の開催は今回が3回目ですが、参加チームの応募状況から、この大会の認知度が非常に高まっていることを実感しました。今回は生徒の皆さんに宮城の復興に対する意識を高めてもらうことを期待して、「がんばれみやぎの高校生!復興の主役は君たちだ!」というキャッチフレーズのもと大会を開催しました。この大会への参加を通して、皆さんの金融経済に関する知識はもちろん、震災復興に対する意識もますます高まることを期待します。



優勝チーム

宮城県仙台第二高等学校
炭焼党カルボナリ



秋田大会

12月17日(土)開催

主催 秋田銀行
会場 秋田銀行 本店10階 大会議室

参加校一覧 秋田県立横手高等学校、秋田県立秋田中央高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立秋田北高等学校、秋田県立大館国際情報学院高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、秋田県立湯沢翔北高等学校、秋田県立矢島高等学校、秋田県立由利高等学校、秋田市立秋田商業高等学校、能代市立能代商業高等学校

参加チーム数 35チーム(11校)

運営スタッフ感想 昨年に引き続き、当行や秋田県教育庁、秋田魁新報社などで組織するNPO法人「あきた・まなVIVA!創造塾」の協力のもと秋田大会を開催しました。昨年決勝ラウンドで惜しくも涙を吞んだ横手高校「みいりのQE2」が、予選から圧倒的な力を発揮して、宣言どおり見事リベンジを達成しました。また全体でも、出場30チーム中6チームが連続出場と、秋田県内での「エコノミクス甲子園」の知名度は確実に向上して来ていることを実感しました。



優勝チーム

秋田県立横手高等学校
みいりのQE2





埼玉大会

11月27日(日)開催

主催 埼玉りそな銀行
会場 埼玉りそな銀行 さいたま営業部

参加校一覧 埼玉県立浦和第一女子高等学校、
埼玉県立越谷総合技術高等学校、
川越東高等学校、早稲田大学本庄高等学院

参加チーム数 19チーム(4校)

運営スタッフ感想 「ダブルアンサークイズ」の導入により、優勝決定まで大変拮抗した大会となりました。優勝・準優勝は昨年度に引き続き、メンバーを組み換えて参加してくれた「早稲田大学本庄高等学院」でした。クイズ大会を通して、楽しみながら金融経済に興味を持ってもらえるよう、今後も大会を盛り上げていきたいと思っております。大会の様子はりそなホールディングスのHPをご覧ください。

<http://www.resona-gr.co.jp/holdings/other/econ/index.html>



優勝チーム

早稲田大学本庄高等学院
なべとすし



千葉大会

12月18日(日)開催

主催 千葉興業銀行/千葉銀行
会場 千葉興業銀行 本店7階

参加校一覧 市川高等学校、流谷教育学園華強高等学校、成田高等学校、千葉県立鎌ヶ谷高等学校、千葉県立千葉高等学校、千葉県立千葉商業高等学校、千葉県立千葉東高等学校、千葉県立船橋高等学校、千葉県立津田沼高等学校、千葉県立八千代高等学校、千葉県立木更津高等学校、船橋市立船橋高等学校、東邦大学付属東邦高等学校、八千代松崎高等学校、流通経済大学付属柏高等学校
参加チーム数 24チーム(15校)

運営スタッフ感想 千葉大会としては第3回目ですが、今回スタッフは初めての者が多く、協会のスタッフの応援をいただきながら全員で奮力して開催することができました。総勢21チームによる熱戦が繰り広げられ、決勝ラウンド進出の6チームは、ダブルアンサークイズで用意された問題9問を全て使い果たして優勝が決まるという、劇的な結末となりました。参加高校生のアンケートの中では「とても楽しかった」「また出場したい」「もっと勉強したい」という、嬉しい意見をたくさん頂きました。千葉興業銀行と千葉銀行の2行でこれからも大会運営をバージョンアップし、盛り上げてまいります。



優勝チーム

市川高等学校
ナイススティック



関東大会

12月11日(日)開催

主催 りそな銀行
会場 りそな銀行 東京本社2階 りそなコミュニケーションプラザ

参加校一覧 関成高等学校、青山学院高等部、女子学院高等学校、筑波大学付属高等学校、長野県松本深志高等学校、東京都立永山高等学校、東京都立立川高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、日本学園高等学校、福島県立会津学鳳高等学校、福島県立福島高等学校、麻布高等学校
参加チーム数 25チーム(12校)

運営スタッフ感想 今年の関東大会は、福島県、栃木県、長野県、東京都から11校22チームが参加して行われました。チーム2人で頭をつき合わせて回答していた第一ラウンド筆記と、毎年恒例りそなオリジナル問題が出題される第二ラウンド早押しの結果、決勝ラウンドには、参加4都県のチームがもれなく進出しました。そんな地域対抗戦を制したのは、福島県立会津学鳳高等学校のベテルギウス。戦略的(?)無回答が多かったボードクイズで積極的に挑戦して得点を重ね、ダブルアンサークイズに見事一発正解、全国大会の切符を手に入れました。1年生チームですが、全国大会では4都県の仲間のみで頑張りたいと思っております。



優勝チーム

福島県立会津学鳳高等学校
ベテルギウス





神奈川大会

12月11日(日)開催

主催 横浜銀行
会場 横浜銀行 本店 大会議室

参加校一覧 横浜高等学校、横浜雙葉高等学校、鎌倉学園高等学校、桐蔭学園高等学校、慶應義塾高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、神奈川県立海老名高等学校、神奈川県立神奈川総合高等学校、逗子開成高等学校、聖光学院高等学校、洗足学園高等学校

参加チーム数 23チーム(12校)

運営スタッフ感想 神奈川大会も4年目を迎え、これまでに延べ200人以上の高校生に参加していただくことを大変嬉しく思います。参加者からは、この大会をきっかけに全経経済に興味を持った、勉強することが楽しかった、という声をいただいています。今後もより多くの高校生の皆さんにチャレンジしてもらえらる機会を提供していきたいと思ひます。



優勝チーム
逗子開成高等学校

ゴンズイ



富山大会

12月18日(日)開催

主催 北陸銀行
会場 富山国際会議場 201・202号

参加校一覧 富山県立富山東高等学校、滑川高等学校、高岡向陵高等学校、国立富山高等専門学校射水キャンパス、富山県立高岡高等学校、富山県立高岡商業高等学校、富山県立小杉高等学校、富山県立水橋高等学校、富山県立石動高等学校、富山県立砺波高等学校、富山県立入善高等学校、富山県立富山高等学校、富山県立富山商業高等学校、富山県立富山中野高等学校、富山南高等学校、片山学園高等学校

参加チーム数 30チーム(16校)

運営スタッフ感想 過去最高の40名を超える観客の応援もあり大変盛り上がりしました。決勝ラウンドは大接戦となり、最後まで誰が優勝するか分らない状況で、問題毎に会場全体が一喜一憂しました。



優勝チーム
富山県立高岡高等学校
シンプル&スタデ



石川大会

12月11日(日)開催

主催 北国銀行
会場 北国銀行 本店5階 大集会室

参加校一覧 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、石川県立金沢商業高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、石川県立金沢北陵高等学校、石川県立小松商業高等学校、石川県立輪島高等学校

参加チーム数 14チーム(6校)

運営スタッフ感想 今大会は、昨年の優勝チーム「イルミナティ」が前評判どおり勝ち、2年連続の全国大会出場となりました。ただし、決勝進出6チームは僅差の争いで、決勝クイズでも予選3位チームが、一時トップに立つなど緊迫する場面もありました。



優勝チーム
金沢大学人間社会学域学校
教育学類附属高等学校
イルミナティ





福井大会

12月11日(日)開催

主催 北陸銀行
会場 福井新聞社 風の森ホール

参加校一覧 国立福井工業高等専門学校、福井県立勝山南高等学校、福井県立羽水高等学校、福井県立丸岡高等学校、福井県立金津高等学校、福井県立高志高等学校、福井県立鯖江高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立武生高等学校、福井県立福井商業高等学校、北陸高等学校

参加チーム数 30チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回参加の3分の一は、昨年大会に引き続いての2回目の参加者でした。リピーターが年々増えてきています。また、学校の先生も来場され年々関心が高まっていることを実感しました。



優勝チーム
国立福井工業高等専門学校
ヌアクシヨット



山梨大会

11月13日(日)開催

主催 山梨中央銀行
会場 山梨中央銀行 研修センター

参加校一覧 山梨県北杜市立甲陵高等学校、山梨県立岐南高等学校、山梨県立桂高等学校、山梨県立甲府西高等学校、山梨県立甲府第一高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立都留高等学校、富士学苑高等学校、駿台甲府高等学校、大月市立大月短期大学附属高等学校、山梨県立日川高等学校

参加チーム数 30チーム(11校)

運営スタッフ感想 山梨大会は今回が初めての開催でしたので、大会が盛り上がるかどうか不安でしたが、クイズの正解が発表された瞬間の歓喜、悲しみなど、高校生の真剣に取り組んでいる姿が大会を大いに盛り上げてくれました。また、参加した高校生から「楽しかった。来年も是非参加したい。」「金融経済に興味が増えた。今後勉強を続けたい。」などの感想が寄せられ、運営スタッフ一同、金融経済教育普及の一助になったことを嬉しく思っております。



優勝チーム
山梨県立甲府南高等学校
聖少女(笑)



岐阜大会

12月4日(日)開催

主催 十六銀行
会場 十六銀行 本店 3階大会議室

参加校一覧 岐阜東高等学校、岐阜県立加納高等学校、岐阜県立可児高等学校、岐阜県立海津明誠高等学校、岐阜県立関高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立岐阜商業高等学校、岐阜県立大垣東高等学校、多治見西高等学校、日本放送協会学園高等学校 岐阜協力校

参加チーム数 22チーム(10校)

運営スタッフ感想 昨年のリベンジを誓うチーム・昨年優勝した先輩に追いつくことを誓うチーム・今回新たに参戦した新興勢力のチームと、さまざまなチームの参加により昨年以上に盛り上がった大会とすることが出来ました。特に決勝戦のダブルアンサークイズでは二転三転する展開となり、最後まで緊張するシーンが続きました。金融経済に関する話題に楽しみながら興味を抱いてもらえる機会を提供できたことは非常に有意義であったと確信しています。次回もより多くの高校生に参加してもらえる大会にしていきたいと考えています。



優勝チーム
岐阜県立岐阜高等学校
ギガデリック





静岡大会

12月4日(日)開催

主催 静岡銀行
会場 静岡銀行 研修センター

参加校一覧 静岡学園高等学校、静岡県立磐田南高等学校、静岡県立佐久間高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立静岡高等学校、静岡県立島田商業高等学校、不二聖心女子学院高等学校

参加チーム数 18チーム(7校)

運営スタッフ感想 今回、初めての静岡大会開催でしたが、7校17チームと多くの高校生に参加いただき、参加者・スタッフ一同が楽しみながら、大会を行うことができました。この大会をきっかけに、より多くの高校生が金融・経済に興味を持っていただけるよう、次回以降も楽しく盛り上げられる大会を目指していきます。



優勝チーム

静岡県立島田商業高等学校
島研会



愛知大会

12月18日(日)開催

主催 愛知銀行
会場 愛知銀行 本店 8階ホール

参加校一覧 国立愛知教育大学附属高等学校、愛知県立旭丘高等学校、愛知県立一宮高等学校、愛知県立千種高等学校、愛知県立豊橋東高等学校、海陽中等教育学校、国立名古屋大学教育学部附属高等学校、南山高等学校(男子部)、滝高等学校、東海高等学校、名古屋高等学校

参加チーム数 20チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回から対象エリアが愛知県内のみとなり、参加者が少なくなるかと心配しましたが、沢山の高校生の皆さんに参加いただき、また、過去に本大会を優勝したOBも進学先の関東・関西から見に来てくれ、大変賑やかな大会となりました。次回も高校生の皆さんに楽しんでいただけるよう、盛り上げていきたいと思ひます！



優勝チーム

愛知県立旭丘高等学校
AQuA



三重大会

12月18日(日)開催

主催 百五銀行
会場 百五銀行 研修所α

参加校一覧 高田高等学校、三重県立四日市四郷高等学校、三重県立四日市商業高等学校、三重県立四日市南高等学校、三重県立川越高等学校、三重県立津高等学校、三重県立津商業高等学校

参加チーム数 26チーム(7校)

運営スタッフ感想 初めての試みということもあり不安もありましたが、参加いただいた生徒の皆さまや、協会・教育委員会の皆さまのご協力のお陰で無事に大会を開催することができました。今回をきっかけに、皆さんが少しでも金融経済に興味を持っていただき、今後の生活に役立てていただければと思います。私どもも、今後も金融知力向上のため、できる限りの活動を行っていきたく思います。



優勝チーム

三重県立津高等学校
アーカイブス





関西大会

11月20日(日)開催

主催 リソナ銀行/近畿大阪銀行
会場 リソナ銀行 大阪本社

参加校一覧 関西学院高等部、京都成章高等学校、高槻高等学校、滋賀県立守山高等学校、清風南海高等学校、大阪市立東商業高等学校、東山中学高等学校、同志社香里高等学校、藤高等学校、洛南高等学校

参加チーム数 17チーム(10校)

運営スタッフ感想 今回初めてMCの補助を行いました。画面、音声、言葉が一つになることで、聴く人たちに、真意が伝わる事を改めて気付かされました。積極的に話しかけてくれる高校生に元気と向上心をもらい楽しい時間を過ごす事ができました。



優勝チーム
瀬高等学校

ご自由にどうぞ



奈良大会

12月18日(日)開催

主催 南都銀行
会場 南都銀行 研修センター

参加校一覧 西大和学園高等学校、智辯学園奈良カレッジ、帝塚山高等学校、東大寺学園高等学校、奈良学園高等学校、奈良県立香芝高等学校、奈良県立欽傍高等学校、奈良県立大淀高等学校、奈良女子大学附属中等教育学校

参加チーム数 30チーム(9校)

運営スタッフ感想 今回で3回目となる奈良大会は、初出場校を含め過去最高となる28チームが参加しました。優勝チームはボードクイズを全問正解、ダブルアンサークイズを初回のチャレンジで正解するなど、全体として非常にレベルの高い大会となりました。今回は高校生に金融経済の知識を身につけてもらうほか、休憩時間に企業の社会的責任(CSR)に関する説明を行うなど、銀行が本大会を主催する意義についても理解してもらうように努めました。



優勝チーム
東大寺学園高等学校
イノベーション



中国大会

12月18日(日)開催

主催 中国銀行
会場 中国銀行 本店3階 大講堂

参加校一覧 同山県立経社高等学校、安田女子高等学校、同山県立井原高等学校、同山県立同山一宮高等学校、同山県立同山城東高等学校、同山県立同山朝日高等学校、同山県立同山東商業高等学校、同山県立同山芳泉高等学校、同山県立笠岡高等学校、同山県立笠岡商業高等学校、同山県立玉島高等学校、同山県立勝山高等学校、同山県立倉敷高等学校、同山県立倉敷南高等学校、同山県立倉敷北高等学校、同山県立倉敷東高等学校、同山白旗高等学校、同山西高等学校、玉野市立玉野商業高等学校、金光学園高等学校、広島学院高等学校、広島大学附属福山高等学校、朝日館中等教育学校

参加チーム数 58チーム(23校)

運営スタッフ感想 今回も、多数の高校生が参加し、盛況のうちに終了いたしました。今回は、大会を盛り上げるために、被り物を用意し、高校生に任意で被ってもらいましたが、被りたい高校生が多く、人気の的となりました。アンケートでも、「楽しかった」という意見も多く、今後、さらに改善を回り、よりよい大会となるようにしていきたいと思っております。



優勝チーム
広島大学附属福山高等学校
0↑(ゼロベクトル)





徳島大会

12月11日(日)開催

主催 阿波銀行
会場 阿波銀行 本店 大会議室

参加校一覧 徳島文理高等学校、徳島県立阿波高等学校
徳島県立城ノ内高等学校、徳島県立城東高等学校
徳島県立城南高等学校、徳島県立川島高等学校
徳島市立高等学校、徳島商業高等学校、脇町高等学校

参加チーム数 19チーム(9校)

運営スタッフ感想 徳島大会は今年で2回目の開催となりました。昨年の優勝チーム、準優勝チームも参戦し、熱戦が繰り広げられるなか、みごと徳島県立城ノ内高等学校「S.S」が優勝を決めました。今回の開催にあたり、ご参加いただいた高校生のみならず、ご尽力いただいた関係各所のみなさまに厚く御礼申し上げます。



優勝チーム
徳島県立城ノ内高等学校

S.S



香川大会

12月11日(日)開催

主催 百十四銀行
会場 百十四銀行 本店5階 ホール

参加校一覧 香川県立高松北高等学校、香川県立観音寺第一高等学校
香川県立高松工業高等学校、香川県立高松高等学校
香川県立坂出高等学校、高松桜井高等学校

参加チーム数 11チーム(6校)

運営スタッフ感想 参加チームは少なかつたものの、高校生の皆さんの意気込みは十分で、女子選手の活躍もあって会場は大いに盛り上がりました。実力に運も味方につけた全国優勝チーム「ルパン」は、1回目のダブルアンサークイズで早々に優勝を決めガッツポーズ。念願の全国大会でのリベンジを誓いました。次回は参加者を増やし、より一層大会を盛り上げたいと思います。



優勝チーム
香川県立高松高等学校

ルパン



愛媛大会

11月23日(水)開催

主催 伊予銀行
会場 エミフルMASAKI エミモール1F

参加校一覧 愛媛県立伊予農業高等学校、愛媛県立宇和島東高等学校
愛媛県立松山工業高等学校、愛媛県立松山中等教育学校
愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立松山南高等学校
愛媛県立八幡浜高等学校

参加チーム数 30チーム(7校)

運営スタッフ感想 今大会は、株式会社フジさまのご協力により、初めて大型商業施設のエミフルMASAKIで開催し、多くの皆さまにご覧いただくことが出来ました。当日は、「らくさぶろう」さんの司会のもと、高校生の熱い闘いで盛り上がり、楽しい一日となりました。教育関係者をはじめとする関係者の皆さま、高校生の皆さん、ご来場の皆さま、ありがとうございました。



優勝チーム
愛媛県立松山中等教育学校
マネタリズム





九州大会

12月11日(日)開催

主催 西日本シティ銀行
会場 NCBリサーチ&コンサルティング

参加校一覧 文徳高等学校、熊本県立熊本高等学校、弘学館高等学校
上智福岡高等学校、福岡県立光陵高等学校
福岡県立修猷館高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校
福岡県立福岡高等学校

参加チーム数 15チーム(8校)

運営スタッフ感想 最終上位3チームの順位が、筆記と同順位となり、実力がそのまま結果に反映されました。ほとんど初参加のチームでしたが、皆さん大変楽しそうでした。



優勝チーム

熊本県立熊本高等学校
経経WINGs



長崎大会

12月23日(金)開催

主催 十八銀行
会場 十八銀行 本店10階 会議室

参加校一覧 長崎県立佐世保商業高等学校
長崎県立長崎東高等学校
長崎県立長崎北高等学校
長崎南山高等学校

参加チーム数 35チーム(4校)

運営スタッフ感想 今年で2回目の開催となりましたが、昨年を大幅に上回る生徒に参加していただき大変な盛り上がりを見せました。特に優勝をかけたダブルアンサークイズでは、問題がなくなるほどもつれ込み、最後は大逆転で幕を閉じました。最後に参加していただいた生徒のみなさん、ご尽力をいただきました学校関係者の方々および関係各所のみなさまに感謝と御礼を申し上げます。



優勝チーム

長崎南山高等学校
長崎南山2年4組



鹿児島大会

12月23日(金)開催

主催 鹿児島銀行
会場 かざん会館with

参加校一覧 ラ・サール高等学校、志学館高等部、鹿児島県立加治木高等学校、鹿児島県立蒲生高等学校、鹿児島県立鶴丸高等学校、鹿児島県立明桜館高等学校、鹿児島高等学校、鹿児島実業高等学校、鹿児島女子高等学校、鹿児島商業高等学校、鹿児島情報高等学校、樟南高等学校

参加チーム数 22チーム(12校)

運営スタッフ感想 過去全国優勝を出した地方大会として、参加者もスタッフも気合を入れて臨みました。最後までハラハラドキドキで、ダブルアンサークイズで決着!昨年に負けず劣らず大変な盛り上がりを見せた大会となりました。参加者の皆さん、協会関係者の皆さん、運営へのご協力ありがとうございました。



優勝チーム

ラ・サール高等学校
小畑王国





沖縄大会

12月18日(日)開催

主催 沖縄銀行
会場 沖縄銀行 本店5階 ホール

参加校一覧 沖縄県立開邦高等学校、沖縄県立那覇商業高等学校
沖縄県立名護商工高等学校、沖縄尚学高等学校
昭和薬科大学附属高等学校、中部商業高等学校
那覇国際高等学校

参加チーム数 40チーム(7校)

運営スタッフ感想 今回で五回目の地方大会開催となりますが、毎年盛り上がり、応援してきて良かったと思います。来年は更に参加校を増やしたいです。



優勝チーム

昭和薬科大学附属高等学校
人生変え隊



協賛各社

教育エンターテインメントイベントとして多くの高校生の参加を得ているエコノミクス甲子園。実は高校生は無料で参加しています。各地方大会の費用は主催地方銀行が、全国大会や、募集のホームページ、事前学習教材の送料などの負担は、大会の趣旨に賛同した皆さんの寄付によって賅っています。

特別協賛



Prudential

ブルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル
生命保険株式会社

ブルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命は、世界最大級の金融サービス機関、ブルデンシャル・ファイナンシャル・インクの一角です。2010年8月に、日本におけるブルデンシャル・グループの銀行窓口販売事業(バンカシュアランス)を中心とする代理店チャンネル専業会社として、新契約販売を開始しました。当社は、「お客さまから最も信頼され称賛される会社になる」というビジョンのもと、お客さまに経済的な保障と心の平和を得ていただけるよう最高のサービスを提供することを目指しています。(プレスリリースより)本大会より特別協賛としてご支援をいただいております。

協賛



シティバンク銀行は、シティグループの日本における中核事業の一角として、広く個人のお客様への銀行業務を提供する個人金融部門と、法人のお客様にサービスを提供する法人金融部門の2つの部門にて銀行業務を行っています。シティバンク銀行は、平成24年3月31日現在、38拠点にて業務を展開しています。(HPより)第三回大会より支援をいただいております。

協賛



ラッセル・インベストメント・グループ

ラッセル・インベストメントは、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様に総合的な資産運用ソリューションを提供しています。

グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理、株式インデックスの開発など幅広く業務を行っており、当グループが提供するファンドの運用資産総額は約13兆円※となっています。(HPより)第二回大会より支援をいただいております。

※2012年3月末現在

1 日目

■一日目 / 第一ラウンド・筆記クイズ

20日の夜に宿舎に到着した高校生たち。しかし休む間もなく、翌21日には早朝からラジオ体操と見せかけていきなりクイズを実施しました。その名も『クイズ銀行員に聞きました』。地方大会を主催して下さった各銀行を代表した銀行員の皆様に2択のアンケートを実施、その多数派を当てるというものです。問題は『日頃新聞を2誌以上読んでいるか?』『新卒採用で重視するのは専門知識か、性格か?』等、本を読むだけでは分からない「現場の声」を聞くものが多く、高校生にとっても良い勉強になったようです。

その後、ソーシャルベンチャーの最前線でご活躍されている中西武志様等からプレゼンクイズに関する貴重なレクチャーを受けつつ、高校生たちは翌日のプレゼンクイズに向けた準備を丸1日かけて行いました。プレゼンクイズのグループ分けはこの日の朝に行われたため、見ず知らずの仲間と議論し、作業することになりますが、今年も高校生たちはすぐに仲間と打ち解け、見事なプレゼンを作り上げて見せました。毎年のことながらスタッフはその姿に驚嘆するのであります。

そのほかにも、1日目には実力試しとしての筆記クイズ、さらに高校生たちの親睦を深めるレセプションパーティーが行われました。私どもは、高校生が単に金融知力を競うのみならず、レベルの高い高校生同士が知り合い、互いを刺激合せて高め合うことができるのも、エコノミクス甲子園の大きな強みであると考えています。



2 日目

■第二ラウンド・プレゼンクイズ

翌日、会場のプラザ平成では当協会専務理事の神山より開会宣言をした後に、前日の高校生の準備の成果を試すべく「プレゼンクイズ」が行われました。高校生25チームを5つのグループに分け、各グループが前日に考えたビジネスプランを発表、前日にレクチャーを頂いた中西様をはじめとする5人の審査員に「予算にリアリティはあるか」「被災地の復興に役立つか」等の採点基準をもとに、「そのビジネスに投資したいか」という観点を重視頂いた上で最優秀プレゼンを決めて頂きました。

今回のテーマは、「震災復興に役立つソーシャルベンチャーを考案せよ」というもので、各グループは5分という限られた発表時間をフルに使い、渾身のプレゼンを行いました。審査員の方々も「たった1日でこのクオリティか」と驚きの声をあげて下さいました。中にはグループ内で社長・クレーム担当など役職まで決めていたグループもあったようです。

その中で最優秀賞に輝いたのは、校舎などの被災地の空き家となっている建物を活用し、カフェなどの新設や店舗を失った個人商店の再開を支援する「Project復興」でした。このグループに所属する5チーム(仙台第二、高岡、金大附属、東大寺、広大福山)は一足先に準決勝進出決定となります。特に被災地の代表である仙台第二高校は、「自分達の経験を仲間へ伝え、優秀な仲間と議論することによって素晴らしいプレゼンにすることができた」と感慨深げに話してくれました。



■第三ラウンド・早押しルート「クイズナナマルサンバツ」

プレゼンクイズで惜しくも敗れた20チームは、3つのクイズから1つを選び残り5枠の準決勝進出枠を争うことになります。前日のクイズとプレゼンクイズの成績の合計点の高い順にクイズの選択権が与えられ、各8チームが早押しクイズとボードクイズに、そして4チームは何が起こるか分からないシークレットクイズに挑むことになります。

まず行われたのは早押しクイズ「クイズナナマルサンバツ」。「ナナマルサンバツ」というのはクイズ研究会の中では有名なルールで、「7問先に正解すれば勝利、但し3回お手付きをすると失格」というものです。今回はそのルールをそのまま採用。更に1問につき答えられるチームは最大2チームまで、準決勝に進めるのは先着2チームというルールで行いました。

挑戦したのは旭丘、会津学鳳、城ノ内、岐阜、福井高専、旭川東、津、長崎南山の8チーム。序盤はお手付きが多く失格も出る波乱の展開でしたが、終盤では旭丘、会津学鳳、福井高専の三つ巴の戦いが激しさを増し、結果は会津学鳳、旭丘の2チームの勝利となりましたが、福井高専もあと1問で勝ち抜けという所まで迫っており、敗退が決まった瞬間がっくりと肩を落としたのが印象的でした。

他のチームにも多くの見せ場があり、特に長崎南山は3回目のお手付きと判定された後に審議で判定が変わり復活、終盤点差が離れていた際にも諦めず意地の正解を見せるなど、敗れたものの会場を大いに沸かせてくれました。



■第四ラウンド・ボードルート「B to Cクイズ」

続いての「B to Cクイズ」はフリップに答えを書く「ボード(Board)クイズ」と、「クレジットカードにサインをするのはなぜ?」という様な問題に30秒以内に文章で答える「コンビンス(Convince)チャレンジ」の2つのクイズを組み合わせたものです。特に「コンビンスチャレンジ」は単なる知識でなく、自分の言葉で説明できるか、正しく理解できているかが問われるため、見かけによらず高校生にとっては難関だったと思われます。

まず正解で3点、誤答-1点、無回答0点のボードクイズに挑戦し、10点を超えると「コンビンスチャレンジ」の挑戦権を得られます。「コンビンスチャレンジ」は文章で解答をします。正誤判定は銀行員を中心とする5名の審査員にお願いし、4人以上が「正解」と認めたら勝ち抜けとなります。但し3人以下の場合はボードクイズで貯めたポイントから4点没収され、ボードクイズをやり直さなければなりません。第3ラウンドと同じく、8チーム中2チームが勝ち抜けです。

挑戦したのは、市川、遼子開成、灘、早稲田本庄、甲府南、熊本、ラ・サール、高松の8チーム。ボードクイズでは難問が続き、失点を防ぐべく戦略的な無回答が目立ちましたが、その中でもいち早く10点を積み重ねたのは熊本と遼子開成の2チームでした。そして、そのまま2チームとも「コンビンスチャレンジ」を一発で突破し準決勝進出。改めて高校生のレベルの高さを実感する結果となりました。



■第五ラウンド・シークレットルート「復活!魔の札勘バトル」

残る島田商業、松山西、横手、昭和薬科の4チームは全く事前情報がないシークレットクイズに挑戦することになります。もちろんクイズの選択における優先順位が都合でやむなくこのクイズに割り当てられたチームもありましたが、中には、「クイズ研究会には早押しでは勝てないけれど、これなら勝てるかも!」(松山西)、「目立ちたい!」(島田商業)という理由で敢えてこのクイズを第1希望にしたチームもいたようです。

そんなシークレットクイズの正体は、「復活!魔の札勘バトル」。5分以内に「5000円札の模範紙幣で」「56万円」数えて持ってくるというもの。56万円を早く数えられた順に「日本の1年間の国防予算」「ブルデンシャルファイナンスの総資産」「インドネシアの名目GDP」「東証一部の年間取引量」の4つの中から一つを選び、最も資産価値の高い選択肢を選んだ1チームが勝利というクイズです。

いくら知識があっても手元が不器用なら即敗退というとんでもないルールに高校生たちは大苦戦。5分では誰も成功しないのではという嫌な空気が流れましたが、タイムアップ直前で島田商業が奇跡の成功。他の3チームは札勘失敗の為、その時点で勝利は確定したのですが、実は彼らを選んだ「東証一部の年間取引量」が最も価値が大きく、まさに文句なしの準決勝進出となりました。

しかしその隣で横手チームは号泣。「他のクイズなら勝てた」というコメントに、会場全体が同情を寄せていました。





■準決勝・「クイズニュースキャスター」

準決勝では、プレゼンクイズ勝者と先述の3つのクイズの勝者との間での一騎打ちを5試合行い、それぞれの勝者5チームが決勝に進むことになりました。

一騎打ちの内容は、「クイズニュースキャスター」。ニュース番組をイメージしたステージ上で、チームの2人が「アナウンサー」と「コメンテーター」に分かれ、それぞれが役割を分担してポイントを稼ぎます。そしてその2人の合計ポイントがより高かったチームが勝利するというクイズです。

「アナウンサー」の仕事は、決められたニュース原稿を正しく読むこと。しかし、原稿には6か所穴が開いており、そこは自分自身の金融知力を駆使して補完しつつ読まなければなりません。例えば、「デクシア」「ねんさん特別便」等の言葉が空欄になっています。どれだけ正しく空欄を埋められたかによってポイントが決まります。

「コメンテーター」の仕事は、「アナウンサー」が最後に読み上げる質問に的確に答えること。しかしこの質問は決まった答えのある質問ではなく、「ギリシャ国債がデフォルトした場合に日本経済はどうなるか」「日本企業は東南アジアへの生産拠点を移転を進めるべきか」といったようなもので、論理性や説得力等の観点から5人の審査員の判定によってポイントが決まります。

対戦は5戦とも僅差の戦いとなりましたが、一騎打ちの結果、全大附属、会津学鳳、広大福山、逗子開成、東大寺の5チームが決勝進出を決めました。



■決勝・ポートフォリオクイズ

決勝の「リスクマネジメントクイズ」は、各チーム50万円からスタートし、正解で10万円獲得、不正解で10万円没収、100万円到達で優勝という一見単純なボードクイズです。

但し、「3文字でATMと略される」というように、問題文の途中で一旦問題文が止まってしまいます。そこで高校生は問題文の続きを予想し、不正解で10万円が没収されるリスクに備えて保険をかけるか決断することになります。保険は1口4万円(2口まで)、その後、問題文が最後まで読まれた後に本当に不正解になってしまった場合は保険料の2倍の保険金があるため、保険をかければその分実際に失う金額を少なくすることができます。しかしこの保険「掛け捨てで満期も解約返戻金もない」(司会談)ので、正解の場合は保険料の無駄となる諸刃の剣。いかに保険料を節約しつつリスクに対処するかが問われます。

なお先程の問題、高校生はみんな無保険で勝負をかけたのですが、その続きは「オプション取引の専門用語は何?」という予想外の問題で、(正解は「アット・ザ・マネー」)リスク管理のみならず、スタッフとの心理戦にも巻き込まれることになりました。

試合は首位が次々と入れ替わる大混戦。序盤は広大福山、会津学鳳が首位を奪いますが、中盤で保険をうまく使いこなし東大寺が逆転します。その後終盤にかけ広大福山に加え全大附属も追い上げ必死に食い下がりますが、東大寺が振り切り見事優勝を果たしました。





閉会式

閉会式では、まず特別協賛を頂いているブルデンシャル・ジブラルタ・ファイナンシャル生命保険の谷川様、同じく協賛を頂いているシティバンクの丸山様、ラッセル・インベストメントの加藤様にご講評を頂きました。協賛企業の代表としてはもちろんですが、経済社会に生きる先輩として、『涙もあり頑張っていることが良く分かった』『今日できた友達を大切にしてほしい』などの高校生への心のこもったアドバイス・エールが贈られました。

その後、パフォーマンス賞が札幌バトル後のインタビューで会場の感動をさらった横手高校に、筆記クイズ最優秀賞を100点満点中88点というエコ甲全国大会史上最高得点をたたき出した灘高校・比護君に、そして優勝トロフィー及びニューヨーク研修旅行が東大寺学園高校の2人にそれぞれ贈られ、当協会理事長の金子による講評をもって第6回エコノミクス甲子園は幕を閉じました。

灘高校・比護君をはじめとして、多くの高校生に「来年も参加したい」と言って頂けたことを励みにし、私たち金融知力普及協会はこれからも、エコノミクス甲子園の輪をさらに大きなものにし、1人でも多くの高校生に金融知力、そして激動する経済社会の中で明日を掴む力、そしてそのような社会を生き抜く上で必要な心強い仲間たちを得てもらいたいと考えております。



NY研修旅行のチケットを授与



ブルデンシャル ジブラルタ
ファイナンシャル生命保険株式会社
代表取締役社長兼CEO 谷川 武士様



シティバンク銀行株式会社
取締役副会長 丸山 純一様



ラッセル・インベストメント株式会社
代表執行役員兼副会長 加藤 正純様



優勝カップの授与



全国大会感想 Final tournament report

北海道大会代表 北海道旭川東高等学校二年
山田 恭之

こんにちは。私は先日のエコノミクス甲子園全国大会に出場させていただいた旭川東高校2年の山田という者です。私は北海道予選で優勝して、運良く全国大会に出場する事が出来、貴重な経験をさせていただきました。

前回大会は地方予選で札幌西高校さんに決勝で敗れ、全国への切符を手にする事ができず、悔しい思いをしました。それもあって、今回は前回よりも勉強量を増やし、知識を蓄えて地方予選に臨みました。決勝では後輩に負けそうになりましたが、なんとか優勝することができました。昨年の悔しさもあり、優勝した時には大きな喜びを感じました。後輩には私たちのように、悔しさをばねにして、来年この喜びを感じてほしいと思います。

全国大会前日は、各所で色々なクイズがあり、息の休まる暇がありませんでしたが、中でも、他の高校とグループになって行うプレゼンクイズは最大で、最も面白かったです。最初は緊張もあって、なかなか議論が進みませんが、話し合いをするうちに次第に打ち解け、皆で協力して素晴らしいプレゼンを作成することができたと思います。当日の発表で1位をとることはできませんでしたが、皆と協力して取り組めた1日はとても思い出になりました。

チームとしての結果はあまり芳しいものではなく、大会が終了した後も悔しくてたまりませんでした。しかし、今は、悔しさよりも、全国のレベルを知ることができたこと、「全国から集まった高校生と協力して一つのアイデアを創り上げる」という日常生活では決して味わうことのできない貴重な経験ができたこと、この2つによる喜びの方が大きく感じられます。全国大会に出場できてよかった、心からそう思います。

最後に、このような経験を、素晴らしい機会を与えてくれた大会関係者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

北海道大会代表 北海道旭川東高等学校二年
馬場 貴士

僕はこのエコノミクス甲子園の全国大会に出場できたことが、本当に良い経験となりました。

今年は二回目の挑戦でしたが、去年に地区大会で負けたことをバネとして、全国に行くという思いがありました。地区大会では相方の山田に助けられたり、また負けそうになったときに運も味方して、なんとか優勝することができました。

全国への切符をつかむことができたのですが、全国ではどのようなことをするのか全く分らなかったのですごく不安な時を過ごしました。教材の内容すら100%理解できるとは言えない自分に、全国レベルの問題が解けるのだろうかという思いでいっぱいでした。

そして全国大会当日、土曜日に出席した課題が「東北の復興に役立つソーシャルベンチャーを考案せよ」。僕はどのように考えたらよいか全くわからず、全国大会前からの不安は拭ききれませんでした。この課題は5チームを1グループとして10人と一緒に考えるというものでした。最初は自分も周りもよそよそしくて、意見がなかなか出なかったり、互酬の状態があったり、議論が難航していました。しかし、議論を続けることでプレゼンのヒントを得ることで話し合いの方向が見えてきたり、意見を一つひとつとすることで互いに親しみが生まれて意見が活発に出るようになっていって、議論が徐々に楽しくなってきました。見ず知らずの高校生と一緒にあることについて深く考えることができたのは、自分にとってかけがえのない経験となりました。

日曜日はプレゼン終了後に3つのコースに分かれて戦いました。僕は早押しクイズで戦うことになりました。Bチームから2チームしか勝ち抜けることができないうえ、序盤はボタンを押すこともできず他の高校に得点を奪われる展開になってしまいました。中盤からは自分も押してやると思いついて積極的にボタンを押しました。3つも解答を正確にできていって爽快感となりました。本当に悔しかったです。

その後の戦いは観戦者として客席から見ていたのですが、他の戦いよりも圧倒的に面白かったです。知識だけでなく、自分の考えや今後の予想などを制限時間内に発表できる同級生を見て、「自分ももっと頑張らなければ」と強く思いながら観戦していました。

この大会を通して経験できたことは、僕の人生の貴重な財産となりました。来年は受験勉強があるのですが、この大会には参加できませんが、これからも大学などで経済や金融の勉強をして、社会人になってからもこの分野に興味を持ち続けたいとおもいます。

最後に、このような大会を開いていただき、本当にありがとうございました。

宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校二年
佐藤 主樹

東日本大震災から9か月後、年末に宮城大会を運だけで勝ち抜き、私たちは今年1月の全国大会に参加しました。

私には当初、自分達が「被災地代表」なのだという自覚が全くありませんでした。沿岸部に比べ自分が被災であまり被害を受けなかったから、そしてこの大会に取り組むことと被災地の復興が関係ないこのように思えたからです。

しかし東京に行き他県の人と話をしていく中で、またこの特別な年の宮城代表として取材を受けていく中で、何よりこの大会を通して課せられたある課題を通し、私の思いは若干変わりました。

東京に来て2日目、まだ大会の雰囲気に慣れていないうちに、翌日の本番に向けたお題が私たち出場者に課せられました。それは「被災地の経済を復興させるソーシャルアントレプレナー」というもので、つまり被災地の経済的な復興に貢献するようなビジネスを創り出す、というものでした。

25チーム50名の私たち出場者は、5グループに分類されました。役員・係決めをした後に、私たちのグループは「復興とは何か?」という論点から話し合いを進めました。

話し合いを進めていく中で、私には収穫がありました。私は宮城県民であるにも関わらず、というよりそこに甘んじて、被災地の現状をあまり積極的に知ろうと自分が努めていなかったことに気がつきました。またチームの物販出身者の仲間の話が厚み中心になっていくのを見て、津波の被害を受けた場所の現状について、全国レベルではどのように認知されているのか疑問に思いました。

発表の日に行き詰まり、私たちは発表を変え、宮城県仙台市を例に津波の被害を受けた沿岸部のビジネスプランを考えることにしました。その結果、被災地を拠点に、被災地の方々を対象とした商業を思いつきました。こうして計画の具体化が進んでいったのですが、その過程で「宮城代表だから」という理由もあり自分の意見や知識が重んじられていくのを感じました。無知な私の場合、それは一人歩きといっても過言ではなく、改めて自分の勉強不足を恥じました。ここで初めて、「被災地代表」という言葉の意味の一つを悟ったのです。

話し合いの常だともいえますが、私たちは意見が衝突することがしばしばありました。その多くは「複合の具体策の対立」というものではなく、「起業理念—コンセプト—起業内容」といった順序で与えられた計画の中で生じる矛盾についてのものだったのですが、論理的に物事を考えるのが苦手だった私にとってそれはすごく新鮮でした。意見の食い違い自体は問題ではないと思っていたので、私は自分の考えを思い切り前にぶつけていくと努めました。その中で思考力を鍛えられたし、自分の考えを誰かの人に相手に話せるようになり、大きく成長できたのではないかと感じました。

村余曲折を経て深夜に企画とそのプレゼンテーションに使うパワーポイントは完成し、入浴時間を奪われた私たちは辛くも睡眠時間は確保できたのでした。

翌日は本番でした。早速私たちは前日1日かけたビジネスプランをステージ上で発表しました。

発表終了後、私たちは司会の方からプレゼンの感想を求められました。私は前日感じた、被災地への私なりの思いを、ビジネスプランの内容を踏まえて話そうと思いました。

度重なる避難や転居を通し、被災地にもともとあった歴史が失われていること、被災地に住む方々の暮らしのために、その絆はなくはないものかということ、今の被災地の状況に、もっと目を向けて欲しいということ。

しかし時間と審査への影響もあって、途中で止められてしまいました。今思うと当然の話で、場所をわきまななかつた私が悪いなあと反省しています。すみませんでした。

その後は他グループの発表を聞いていたのですが、他グループのビジネスプランに対し、また自分のビジネスプランに対し、様々な思いが出てきました。

「その事業内容では被災者が対象とはなりえず、元々考えていた企業理念とは矛盾しているのではないのか?」「被災者と提携しようにも、その企画は被災地の現状とかけ離れていて無理があるのではないのか?」

「その被災地の被害状況はそういうものではない」など、多くの批判的な考えが私の頭の中を浮かべられてきました。1日という時間の中で、何の知識もスキルもない高校生ができることは限られていること、また独創性が問われるベンチャービジネスは、しばしばアイデアばかりが先走ってしまうということに気づきました。同時に、私の頭の中である自問が浮かんできました。

「では、自分は被災地の何を知っているのか?」

前述のとおり、私はこの課題を通し、自分が被災地

についてどれだけ知らなかったかを思い知らされました。そして、今後は周囲で流れるニュースについてもっと敏感になり、地元のことを知らねばと考えました。

意外にも私たちのグループのビジネスプランが1位に選ばれ、私たちのチームは準決勝に進むことができました。しかし動画をご覧の通り、結果は惨敗でした。ただただ自分の勉強不足だったと反省し、恥ずかしく思っています。

私は経済学部志望というわけでもないし、実生活を除いてこれ以上経済や金融について勉強することはないと思います。したがって、自分が経済という分野を通して被災地の役に立つこともないと思います。ただ、この大会を通して、その上でその後の生活を通して、私は自分の夢を叶え、自分のやりたいことを通して被災地に貢献しようという思いが固くなりました。その意味で、この大会は私にとって1つのターニング・ポイントとなりました。

そのほかの感想としては、大会の運営について機づかぬところがありました。

まず大会運営について、全体的に見逃しが甘かったように思います。本番当日は終了時刻が予定よりも1時間ほど延び、朝の交通機関などを予約している人たちはその大変さだったのではないかとと思われる。表彰式などは、必ずしも全員がいなければならないものではないので、時間が押している人だけでも先に帰らせる措置をとっても良かったはずですが、その前日、私たちが急がせるとも確かに大事ですがそれと同時にスケジュールに無理がなかったか、精査する余地はあったのではないかと考えられます。

もう一つはルールの内部での不徹底です。大学生だから仕方ないのかも知れませんが、大会ルールについて他の出場者の質問にろくに答えられていないことが何回もあり、細かな質問に1人1人が対応できているようにはなっていませんでした。

最後に審判委員での連絡が行き届いていませんでした。これは私たちの話ですがスケジュールに変更があったのに連絡されておらず、戸惑ったことがありました。

この程度のことには皆さんの反省の中で出ていても思いますが、大会の歴史がそもそも浅いので、これから改善していければよいのではとも思います。

私はこの大会を通し、短い時間で多くのことを学ぶことができた。最後に大会運営にあたってくださったスタッフの方々、会場まで引連れてくださった七十七銀行の尾形様、支援してくださった多くの方々への感謝の念を申し上げて感想とさせていただきます。3日間、本当にありがとうございました。

宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校二年
小野寺 研治

第一に、今回の大会においてお世話になった皆さんに感謝の言葉を伝えたいとおもいます。大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

今回の大会へは、クイズ研究会に共に所属していた相方、佐藤に誘われ、特に目的もなく参加していました。ですが、その中でよく理解していなかった経済の事について学べた事は多くの収穫になったと考えております。今回の事をきっかけに、日々の生活に活かす事ができるよう、経済の動きに関心を持っていきたいと考えます。

また、大会でのプレゼンクイズでは、大会当時は学生からおよそ10ヶ月が経過しようとしていた東日本大震災について再び深く考えさせられる事となりました。「被災地の復興に役立つベンチャービジネス」というテーマであったので、被災地の今を他県の方に説明しようとしたときに、それができない自分に「私は同じ県に住んでいても、被害の大きかった地域がどのようであるのかわからないのだ」と愕然といたしました。自分自身はそれほど大きな被害を被ったわけではありませんが、同じ被災した県に住む者として、新しい情報に耳を傾けるようにしようと感じました。

今回の大会で学んだ事、感じた事を今回ばかりで終わりにせず、これをきっかけにしてこれからは活かしていきたいと思っております。

最後に、大会中での不手際などを含め大会運営に携わった多くの皆様にご迷惑をおかけした事を心よりお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

秋田大会代表 秋田県立横手高等学校二年
渡会 郁一

私の全国大会への挑戦はこれが最初ではありません。小中学生の時は趣味である囲碁で全国に出場したことがあり、またそのたびに大きな壁を感じてきました。

高校に入ってから囲碁の全国、化学G Pや物理チャレンジにも参加しました。

特に化学グランプリではあと少しのところにあった全国への切符に手が届かないという苦い経験もしまし



全国大会感想 Final tournament report

た。エコノミクス甲子園は去年は予選一位通過からの敗退という苦い経験もしたため、今年に賭ける熱は並々でなかったと自分でも思います。

努力の結果、地区予選をボード四連答ダブルアンサー一発でクリア。去年の全国の映像で問題の難易度を確認、その周辺の経済用語・証券用語と時事問題、配付資料と手探りながらもある程度絞った対策法は間違っていないと感じました。

そして望んだ全国大会。自分には自信がありました。資料内の問題も資料外の問題も対応できると感じていました。

しかし予想外のことがありました。プレゼンに対する配点とシークレットクイズの内容です。

対策をほとんどしなかったプレゼンが原因（かは分かりませんが）で自分の最も得意とするボードクイズが選べない。それが分かった瞬間涙が流れました。やっぱり自分は対策法を間違えたわけではないと気づいたのも皮肉なことにボードクイズが始まってから。

そしてシークレットクイズの内容が発表。クイズと想っていた分は甘かったといわざるを得ません。

この時点で第二希望に自分は早押しを譲るべきだったと後悔。

早押しで勝ち抜けるかはともかく楽しく経済クイズが出来たであろう事は確実でした。

…そう。自分はクイズさえ出来れば良かったのです。知識の発表の場さえあれば勝てなくても良かったのです。

それすら与えられなかった（自分で握りつぶしたとも言えるかも知れませんが）悔しさ…札勘での敗退決定時に自然と涙がこみ上げてきました。

決してパフォーマンス賞が欲しかったからではないです。そのときは存在を知りませんでしたし。

「なんのために累計半年以上対策したのだから。全国で札勘するためには無かったはずなのに…」痺りの電車ではずっと同じ事を考えていました。

そして今、自分の手元には大会で使ったもの、ビンゴで当たった「ツンデレかた」。そしてパーティーで醤油を飲み物に混ぜられ続けたことを含めしゃべりも楽しかった思い出があります。

不完全燃焼で大会は終わってしまいましたが、自分と同じ考えであるのに自分の趣味に付き合ってくれた経済クイズに出会えた相手と、このような楽しく金融知識を身に付ける機会を下さった金融知識普及協会にとても感謝しています。来年以降も成功することを願っています。

秋田大会代表 秋田県立横手高等学校二年 飯塚 希

この大会には、前年の年に別の人とエコ甲に出場した。相方の誰かさんに誘われて参加しました。学校では現代社会しかやっていますけど、苦手ではなかったで引き受けました。

しかし勉強を始めてみると、「聞いたことはあるけどわからない、説明できない」という言葉が沢山出てきて、自分でも何と知らないんだなと感に感じました。

地方大会では、凄く足の速いと感じました。ただ、全国ではもう少し頑張ろう、と思っていましたが、冬休みの課題に追われるうちにあとという間に休みは終わりました。全国大会の日がやってきました。

プレゼンクイズは、一度ではなかったのとは違って、メンパーは、旭川東、津、長崎南高、昭和薬科と、北から南まで集まりました。プレゼンを作るのはやはり大変でした。知識をもとにして、思考力や発想力など様々な能力が求められるクイズだと思っています。皆で考え、意見を出し合うのは楽しかったです。なにより貴重な経験だったと思います。

ついでに、雑誌も地域性を感じ楽しかったです。全国大会っていいなと思いました(笑)

レセプションパーティーでは、ラッセルなどあちこちの人と、相方のジョースに醤油を入れるという女子高生らしいからめ悪戯をして遊んだりもしたのですが、全国の面白い人たちと交流でき、これも楽しかったです。それから、スミスさんと話せて嬉しかったです。

大会当日は、第二希望のシークレットクイズにまわってしまい、始まる前から(とくに相方から)半泣きでした。そしてまさかの札勘クイズ。負けて号泣し、パフォーマンス賞をいただきましたが、やはり悔しかったです。押しの新幹線でも泣いていました。馬田商業さんすみませんでした。百万円札、大切にします。

東京で活動したのは実質2日だけだったのですが、1週間くらいいたような気分でした。帰ってきてから数日間、泣き顔太郎のような状態でした。それだけ充実していたのだと思います。

最後は涙で終わりましたが、参加できてよかったです。もし一年生だったら、もう一度参加したかったです。そして、これからエコ甲の参加者が増えてほしいな

と思います。とくに女子は私を含めて4人しかいなかったもので、もっと広まっていくことを願っています。最後に、皆さんありがとうございました。

埼玉大会代表 早稲田大学本庄高等学院二年 星田 祐輔

去年突破できなかった地方大会で優勝し、エコノミクス甲子園の全国大会に出ることができました。優勝できるとは思っていなかったの、焦りました。全国大会と言えば、やはり灘とか東大寺とかのいわゆる強豪校が出てくることでしょうか。そんな学校相手に、果たして太刀打ちできるのか…これが一番最初に思ったことです。当然敵うわけがありませんでした。名声に見合うだけの勉強を積んできた後、付け焼餅の知識だけ自分たちが勝てるはずもなかったのです。

最初の銀行員クイズから筆記までボロボロでした。二条大でやるパンを主軸に選んだプレゼンは、学校の先生をはじめ多くの人に「健闘していた」とは言われたものの、通過することができませんでした。そして、ボードクイズは桁を間違えるという間抜けな失敗など、良いところもなく終わってしまいました…

しかし、私は負けたという意識よりも、彼らと同じ大会に出れてうれしかった、という感情の方が大きかったです。エコノミクス甲子園の全国大会では、地方大会と違って変わった他のチームとの協力が求められたり、なんだかんだ2泊3日(相部屋になったのはそれこそ強豪の道でした)をともに過ごすうちに、敵よりも仲間という意識が芽生えていました。準決勝ではプレゼンクイズで同じ班になっていた「仲間」を頑張って応援しました。

エコノミクス甲子園でビジュアルアイトを作るために頑張った3日間は一生ものの体験だったと思います。しかしながら、やはり悔しさも残るので、来年はリベンジしたいです。

埼玉大会代表 早稲田大学本庄高等学院二年 沢沢 真理子

私がエコノミクス甲子園に出会ったのは去年のことです。政治経済という部活の一環で参加しました。昨年の大会では政治経済の理解がなかったこともあり、地方大会の時点で手も足も出ない状態でした。そんな私が今年も全国の場に来ていました。

全国でも手も足も出せない思いはしたくない、そんな思いから、いただいた教材を少しずつ読んでいきました。膨大な量の情報で、すべてを覚えることはできなかったと思います。しかし、知らなかったことや曖昧に理解していたことがどんどんわかってくる、本当に経済の知識を付けていくのが楽しく感じられるようになっていきました。

ところが！全国大会に必要なのはそんな知識ばかりではなかったのです。

例外となったプレゼンクイズに始まり、「銀行員に聞きたいこと」やニュースを読むクイズのように、自分の考えを「アウトプット」すること、「今を知る」ことが本大会に必要なことでした。

まず「アウトプット」について話したいと思います。プレゼンクイズは1日使って、ついさっき出会ったばかりの人たちと意見をぶつけ、協力しながら、ともに悩み、一つのものを作成させるというものでした。これには知識などよりも自分の考えを外へ出すことがずっと大切でした。全国大会1年目かつ2年生だったということや(私のグループには3年生チームが2つありました)、あまり自分のプレゼン能力に自信がないということがあって(いわゆるですね)積極的に取り組めなかったように思います。他チームの人がグループの意見を取りまとめられなかったらプレゼンはうまくいかなかったでしょう。来年も出場できるかはわかりませんが、来年のために自分の意見を出すだけでなく、複数人をまとめるという力を積極的につけていきたいと思います。

次に「今を知る」ことです。これを強く実感したのはほかでもないボードクイズです。まさか、自分だけのクイズに選ぶという状況で、私たちのチームは迷わずボードクイズを選びました。理由は簡単です。固りはクイズばかり、私たちがただの政治経済部長…早押し問題で勝つわけがないと判断したのです。もちろんマル秘のようなリスクの高いクイズには手が出せませんでした。このボードクイズが通った。難しいというよりはむしろ聞いたことがない言葉ばかりでした。1問目2問目続けて全チーム無回答であったことからもよくわかるでしょう。しかしだんだん他のチームとの差が広がりました。その原因が何だったか…今振り返ると時事ネタがポイントだったと思います。最近の私はテレビを見ることも少なくなり、新聞も読まず、日々変化している社会をしっかりと理解できていませんでした。今回の大会をきっかけにニュースをこまめにチェックするこ

との大切さを実感しました。今日からは毎日、一面だけでなく新聞を読むようにしていこうと思います。

エコノミクス甲子園に参加してよかったことはたくさんあります。以前よりも金融や経済に関する知識が少しはあふれど増えたと思うし、関心がわくようになりました。新聞やニュースを少しでも見ようという気持ちになりました。普段の生活では出会うことのできない仲間に出会えました。楽しい思い出、来年に向けての目標ができました。

最後に、エコノミクス甲子園に参加する機会を作ってくれた先生・先輩方、相方さん、大会を運営してくださった方々、大会で出会ったみなさん、本当にありがとうございました。この貴重な経験をこれからの生活に最大限に生かしていきます！！

千葉大会代表 市川高等学校二年 長澤 隆生

初め、エコノミクス甲子園という言葉は耳慣れないもので、正直軽く見ていましたし、地方大会前はほとんど勉強していませんでした。

しかし、いくつものチームが参加しており、その中で決勝まで駒を進めた時は「もっと勉強しとけばよかったかも…」と思ったものです(笑)

最後の最後まで粘って、何回も負けたって思いながらの優勝…嬉しい気持ちもありましたが、これからの大会などという気持ちの方が強かったです。

もう相方と一緒に任せてくれないと思いましたが…一週間前になるまでは身が入らず、記憶力を頼みに色んなことを覚えることになってしまいました。

一ゲーム等を我慢して1週間勉強できたことに感謝して、自分でも驚いています。

そして本番。一日はいきなりクイズやプレゼン準備が来て、かなり疲れました。

また、周りの人がみんな面良さそうで…ちょっと話し掛けづらかったです。

そして緊張からでしょうか…あまり眠れないまま二日目。

プレゼンの発表は灘高の南藤くん達に任せていて、良い発表をしてくれたので、負けてしまったのがかなりショックでした。

ボードクイズの問題はかなり難しく…相方の梅園くんが全部丸投げの状態でした。

終わってから思ったことは、もっと経済のことを知りたいてこと、相方への申し訳なさでした。

来年もし出たら…たくさん勉強して臨みたいと思います。

千葉大会代表 市川高等学校二年 梅園 典

エコノミクス甲子園という大会をはじめ知ったのは高校一年生のとき図書館に置いてあったチラシを見たときでした。

社会科目、とりわけ政治経済については以前から興味があり、自発的に勉強していて自分の力を試したいと思い、思い切っ出場しました。

この大会を通して多くのことを経験しました。まず、自分の実力の通用する部分と足りない部分を体験しました。全国大会では単語をただ暗記しているだけでなく、その事柄を深く理解し他人にわかりやすく説明したり、その知識を運用したりする能力が問われましたが、自分の実力の足りなさを痛感することとなりました。

一方で今まで経済ニュースを欠かさず見てきたことで時事問題に関しては適用するという手応えも得ました。

次にこの大会で、全国の地方大会で勝ち抜いた高いレベルのライバル達から刺激を受け、親交を深めました。エコノミクス甲子園にでなければ得ることのできなかった友人であり、今後の自分にとって貴重な財産になると感じました。

エコノミクス甲子園に出場したことで、経済ニュースや本で目にした情報や知識について深く理解し、疑問をもつなど批判的な考察を加えることを心掛けるようになりました。

最後にエコノミクス甲子園でお世話になったスタッフ、大会OBや地方旅行の方々に感謝しています。ありがとうございました。



全国大会感想 Final tournament report

関東大会代表 福島県立津島高等学校一年 猪俣 陽

私は第6回エコノミクス甲子園全国大会に参加し多くのことを学んだ。具体的には次の2点が挙げられる。1点目として、「この大会がきっかけで金融・経済にとっても興味を持った」ということだ。私は所謂歴史好きで、社会系の科目でも地理・歴史が得意な方だった為、経済学などを通じてしか経済には触れてこなかった。(従って、大会中の「ペティクラーク」の法則を大声で答えてしまったわけだが...)しかし、クイズの先輩方がたくさん出場されているエコ甲全国大会に憧れを感じ、関東代表として参加した。

「では、具体的に対策は？」という、金融知普及協会から配られてきた資料や、時事ニュース、そしてクイズ研内の経済系問題を読み込んだ。しかし、この読み込みが甘かったことが全国大会での決勝戦敗退につながってしまった。

全国大会では、全国各地から集まってきた高校生と協力してプレゼンを作るなど普段はできない貴重な体験ができたと感じている。早押しクイズでは、自分の誤答もあったが、何とか勝ち抜いた。スピーチクイズは、自分の得意分野の東アジアを選択でき、時事ニュースと普段のクイズ知識が役立った。しかし、決勝戦では序盤こそトランプに立つものの途中から解答に自信が持たなくなってしまうと途中で大敗を喫した。正確な知識というものは何回も試して初めて自分の物になるのだということを実感した。

私はこの敗退から学んだことは日常生活でも大いに活かせると考えている。まず、常日頃の勉強の甘さへの警鐘である。そして、経済知識をつけるとき、悔しさによって記憶はより定着するものだ。

2点目としては、人のつながりが広がったことだ。相手も含めてのことだが、エコ甲にはやはり頭の回転の速い人が揃っている。全国の優秀な高校生と、模試や通常のクイズ以外で勝負することができ非常に貴重な体験であった。

最後になるが、金融知普及協会の皆様、スタッフの方々、大会で知り合った高校生の方々、相手には本当に感謝の気持ちでいっぱいである。私は今後も深い経済知識をたくさんつけていきたいと考えている。

関東大会代表 福島県立津島高等学校一年 猪俣 陽

僕は経済学に興味があり、さまざまなクイズを通じてそれを楽しく、多角的に学べるという理由で第6回エコノミクス甲子園に参加しました。

対策勉強を始めた。今まで聞いたことのないような単語ばかりで、自分だけが経済学というものを知らなかったかということを感じました。相手が地方大会突破に燃えていたこともあり、無名な経済の知識を短期間で詰め込めるようにがんばりました。自分で本を買う、配布資料や社会の教科書の活用、ニュースに目を通すなどで様々な方面から勉強を重ねました。しかし、地方大会、全国大会と共に対応できない問題も多く、経済学の幅の広さというものを改めて感じました。また、プレゼンクイズやニュースクイズでは、知識をもとに自分たちで考えるという、応用力も必要で、単語暗記だけでは駄目だということも感じました。

何も驚きはないことばかりが、僕にとってのエコノミクス甲子園ではありません。プレゼンクイズと同じグループになった仲間を始めたとする様ざまな人たちで、早押しクイズをしたり、おしゃべりをしたりして盛り上がったことや、レディオ体操など、用意していただいたイベント全てがとても印象的な思い出です。

幸いにも僕はまだ一年生なので、来年もまた参加したいです。また、そう思える素晴らしい大会だったと思います。

神奈川大会代表 逗子開成高等学校一年 女屋 雄祐

2011年12月11日、神奈川県大会で優勝し、エコノミクス甲子園全国大会が開催されるまでの約40日間、全国大会ではどんな難しき問題が出るのだろうか、またチーム内で足を引っ張らずに戦っていくのだろうかという不安が私の心の中にあふれていた。

そして1月21日の土曜日、全国大会が始まりました。最初に自分の心の中の不安が大きくなったのは、筆記試験の時でした。神奈川大会の時は2人で1つの解答用紙を作り上げるというもので、相手である先輩にあたる程度難しかったのですが、この時は1人1枚の解答用紙であったので、とても不安でした。ただ、翌日のボードクイズの時の登場順が上から2番目だったので、それほど足を引き引っ張ってはいなかったのだらうとわかり、少し安心しました。

二度目は、準決勝「クイズ ニュースキャスター」の時でした。クイズの直前にルールが変更され、開始後も度々ルールの変更があり、頭の中で整理ができていない状況でステージに上がりました。その時は2日間を通して最も緊張した瞬間で、そのせいで穴埋め1問目のとても簡単な問題を間違えて読んでしまいました。今考えてみると、相手に差をつけて決勝に進出することができたのでよかったのですが、もしあの問題を間違えたがために決勝進出を逃したかもしれない事を考えれば、とても申し訳ないことをしたと今では思っています。決勝戦では、焦りが出てきてしまい、思うように点数を伸ばすことができず、不本意な結果となってしまいました。初めてのクイズ選手権出場で決勝まで行くことができたことは、とてもいい結果であったと思っています。

神奈川大会代表 逗子開成高等学校二年 西本 光

そもそもエコノミクス甲子園の存在を知ったのは去年のことでした。もともと経済に興味があり、経済誌や経済書を読むことが多かったため、自然と経済に関する話題について社会科の先生と話す機会が多くなり、そんな時、先生からこの大会の紹介を受けました。しかし、紹介を受けた時には締め切りを過ぎており参加できなかったため、来年こそは出ようと思っていました。

そんな経緯を経て第6回エコノミクス甲子園に出場しましたが、全国大会は何もかもが新鮮で予想外の事態の連続でした。その最たるものがプレゼンクイズです。午前9時までにプレゼンを完成させるという制限があったうえ、途中でインターネットが不通になるなどのトラブルが発生して、制限時間ギリギリまでプレゼンの作成に追われました。結局、プレゼンクイズでは思うような結果は残せませんでした。プレゼンが完成した時の達成感は今でも忘れられません。結果的には僕のチームは、ボードクイズや準決勝のクイズニュースキャスターで勝利し、決勝に駒を進めることができました。決勝ラウンドでは事前教材からの出題が多く、明らかに勉強不足を決勝で露呈する形で四位という結果に終わってしまいました。今でもやはり悔しく思いますが、一方で一つの目標へと向かって努力した充実感も大いに感じられました。

まとめ 先述のプレゼンクイズのように、エコノミクス甲子園はどのクイズもただ知識を問うものではなく、答えをその場で即座に考えなければならぬ即戦力を要するクイズもあり、僕のチームがそうでしたが、クイズ研究部に所属していない人でも事前教材をしっかりやり、普段から社会問題に対して問題意識を持っていれば、十分に楽しめることのできるクイズ大会です。そこに単なるクイズ大会と一線を画した、エコノミクス甲子園の醍醐味があると感じました。また今回、エコノミクス甲子園への出場したことで、改めて経済と生活や政治との深い関連性やその影響力を認識させられた一方で、友人との会話、マスコミでの報道において経済の扱いがあまりにも軽易いものを感じるようになりました。そして日本経済が産地に差しかかっている今こそ、万人が問題意識を持つことが何よりも大切だと感じられました。

最後になりましたが、金融知普及協会や横浜銀行の行員の方々、大学生のスタッフの方々には本当にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

富山大会代表 富山県立高岡高等学校一年 嶋崎 裕人

クイズニュースキャスターによる準決勝での敗退が決まった瞬間、ただただ無力感に浸っていて、席に戻ってもボーっとしているしか体がいうことを聞いてくれなかった。振り返ってみれば、運が良かったとしても言いようがない関東大会優勝を勝ち取り、全国の切符を手にした僕は、本道の厳しさをまったく知らなかった。大会前の午前中に行われた筆記クイズでは、ど忘れが連続し、記述では奇絶、思うように書けなかった。次に、午後からプレゼンの作成に入ったが、議論している輪の中にただただレールの存在という感じがしてならなかった。僕にだってレベルが高く、意見がぶつかるのにならぬ、言う前に自分の意見の矛盾点を見つけ出す言えなかったり、自分がやるべき役割をうまく気づけられなかったりして、プレゼンにおける僕のチームへの貢献度は、かなり低く、チームのみんなに申し訳ない気持ちでいっぱいだった。だから、プレゼンで準決勝進出が決まったとき、もちろんうれしかったし、チームみんなへの感謝はしたが、自分自身の達成感も湧いてこなかった。まさに僕は、エスカレーターにただ乗っただけの人だった。大会が終了し、家路に着いた時まだなお無力感はおさまらなかつた。がしかし、寝る前のベッドに入り、大会を振り返ってみたいと、金融経済への興味関心が高まってい

るのに気付いた。もっと知りたいという欲が湧いている自分がいた。大会を通していい経験をしたなと思った。

県大会、全国大会を通して、友人、先生方、親戚などの多くの人たちに応援していただいていたことに感謝の気持ちでいっぱいだった。だが、一番僕が感謝すべき人は、相手の応援である。このエコ甲に参加できたのも彼がいたからこそであり、彼なしでは当然このような経験はできなかったであろう。それに、筆記やボードクイズ(ともに県大会)や、プレゼンにしろ、わからないことが多すぎる僕は何度も彼に助けられた。実に彼のおかげで、ぜひ来年は、さらなるレベルアップをして、また彼と全国の舞台に立ちたいと願っている。

富山大会代表 富山県立高岡高等学校一年 松原 尚生

この大会の存在を知ったのは昨年の4月のことだった。友人から出場してみないかと誘われて承諾した。そして10月、そんな話をとくに忘れていた僕は、突然大量の教材が送られてきたことに困惑した。その友人に話を聞くと、すでに出場を申し込んであったらしい。申し込んだ以上出ないわけにはいかないで僕は、仕方なく「？」勉強を始めた。

そして、ああだこうだしているうちに県大会で優勝し、いつの間にか全国大会進出が決まっていた。友人の誘いで、一方では、全国レベルの大会への出場経験がなかった僕は、心を弾ませており、真顔に勉強してよい成績を残してやろうというやる気がわいてきた。そのせいで、東京へ行く日が近づくにつれ、僕は夜も眠れないほど興奮していた。

大会当日、地方大会とのあまりの違いに驚かされた。地方大会では知識を問う問題がほとんどであったが、全国大会は違った。プレゼンテーションクイズや札勘、論述など、見たこともないような様々なクイズが飛び出してきた。ただただ驚くばかりで、空気にのまれていた気がする。

一番の目玉であったプレゼンクイズは無事1位で通過し、準決勝に挑んだ。正直、あまりに緊張していて、準決勝の内容はあまり覚えていない。そして、いつの間にか敗退が決まった。

そこで言えたのはただ一つ、自分の知識のなさが顕著に表れたということである。ただ、こんなことを負けた後にも言っても仕方がない。

僕は心に決めた。もっと勉強して、来年も出場して決勝まで行ってやろう、と。

今回は、準決勝敗退というふうがない結果に終わってしまったが、来年こそは栄光をつかみにいこう。

もうひとつ、エコノミクス甲子園は、大量の知識だけでは太刀打ちできないことも分かった。日頃から様々な事象に関心を寄せ、思考も身につけていきたい。来年まで待ってろよ、エコノミクス甲子園!!

石川大会代表 金大附属高等学校二年 比高 裕大

「経済」この二文字との出会いが、私の人生を変えたと言っても過言ではない。この二文字は青春の1ページどころか数ページにわたって輝いています。

私がエコノミクス甲子園と初めて出会ったのは1年の秋のことです。そのときと一緒になって一緒に話したこともあった岡本が、経済に興味がないかと尋ねてくれたのが始まりです。その当時から目的もなく過ごして、また元から公民は結構好きだったので軽い気持ちでエコノミクスに参加を決めました。そして実際に勉強を始めたところ経済の魅力にとりつかれてしまいました。こんなにも自分の知っている世界は狭く、その先には見たこともない景色が広がっているんだ、と愕然としたのです。経済を勉強していくうちに自然と国際関係や政治に関するニュースも見るようになり、毎日ごとくも調べていきました。そうしたなかで迎えた、去年の5月エコノミクス甲子園。地方大会は優勝したいな、と思っていたところ、全国大会の決勝戦まで残ることができ、我ながら驚きました。5月での経験をもとに6月でリベンジを果たすため、学校で「経済研究同好会」を立ち上げて1年間経済修行を積みました。そんな中やってきた今年の大会、結果は準優勝に終わってしまいましたが、6月もいい経験となりました。この感想文では、5、6月で学んだことと経済をやったことで得たものを書きたいと思っています。

まず初めに、視野の狭さ。普段は石川県という狭いコミュニティで暮らしていて、なかなか視野の広がりが感じられませんでした。けれどもこのエコノミクス甲子園の全国大会に参加して色々な地域の人や運営の方と交流することで、自分の世界の狭さを再確認すると同時に、もっとやろう、というハングリー精神を手に入れられました。この感覚を保持していこうと思います。



全国大会感想

Final tournament report

次に、主体的に学ぶ喜び。普段は学校のカリキュラムとして英語や数学などを学んでいる。どうしても「やらされている」という風に感じがちですが、このエコノミクス甲子園は私に主体的に学ぶことの楽しさを再び教えてくれました。自ら求めてやるから記憶力も格段に上がるし、集中力も続きますし、何よりやっていると本当に楽しく、時間が経つのがわからなくなります。実際私は、1日で18時間位経済をやったこともザラにあります。

最後に、ひととのつながり。個人的には経済や政治について一冊これか得られて良かったと思います。プレゼンをするチームはもちろん、歓迎パーティや大会終了後の打ち上げでの交流、大学生スタッフさんとお話、金融知力普及協会の方々、地方大会・全国大会で知り合った交流が生まれた各校の生徒たち、2年間一編についてきて下さった北國銀行の福村さん、経済同好会の仲間や来年は優勝するといってくれた後輩たち、顧問の植田先生、そして、相棒の岡本。自分は経済をやることでもこんなにも沢山の人が出逢い、成長し、思い出づけることができました。これは私の財産です。この財源を胸にこれからの人生をより良いものにしていこうと思います。

最後になりましたが、イルミナティを応援してくださった方々やエコノミクス甲子園という人生を変えてくれた機会を与えて下さった運営者の方々に、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました！学生スタッフになって皆さんと再び会うその日を楽しみにしています。

石川大会代表 金大附属高等学校二年
岡本 賢

第六回エコノミクス甲子園に出場を決めたのは、昨年の第五回エコノミクス甲子園での全国大会がきっかけでした。前回は一年生として出場し、最終的には決勝ラウンドまで出場することができました。しかし、他のチームの實力に比べて私たちの力が及ばず、何も書えられず悔しい思いをしました。その気持ちから私たちはスタートしました。まず学校で経済同好会を設立することを決め、仲間を集めて更なる活躍を試みました。自分たちで授業をしたり、プレゼンテーションしたり、マーケティングを考えたりと様々なことをお互いにアイデアを出し合っ一年間してきました。そんな日々を経て、今回の大会に参加してリベンジを試みました。今回は絶対に優勝すると相手と誓い努力を続けてきたので、意気込みは十分ありました。地方大会を勝ち抜き、全国大会に来てプレゼンテーションやアナウンスクイズなどを突破し、念願の決勝ラウンドに進出して緊張も高まっています。全力を出しましたが、あと一歩及ばず優勝を果たせませんでした。本当に悔しかったです。この思いを後輩に託して今後頑張ってください。

今思うと私はこのエコノミクス甲子園を通して得たものが多いとおもいます。そのおかげで高校生活が本当に充実したのようになっていきました。経済を勉強することで今見える世界がさらに広がりました。新聞やテレビからのニュースに対して関心を持つようになりました。それらから世界への視野を考えるようになり、将来はぜひ海外で活躍したいと思っています。私を変えてくれたエコノミクス甲子園をずっと後輩にも友達にも広げていきたいと思います。今までありがとうございました。今後よろしくお願ひします。

福井大会代表 国立福井工業高等専門学校三年
村中 健彦

エコノミクス甲子園……ああ、何と知的な響きがあるのだろうか。きっと参加者の面々もスタッフの方々も、工業系でガツガツと遠く、大会名と同じように知的でスマートな者が揃っているのだろうか……と想像していた時期が、私にもありました。

だが実際はどうか。OBの皆さんは先陣切って常軌を逸しているのではないかと「イカ郎さん」って、何なんだ「レディオ体操」って！裏切られさせ甲子園……勿論、悪い意味で。

しかし、とは言ったものの、ライバルでありチームメイトであった別の部代表の皆さん、良い意味で裏切ってもらった。彼等ほどでもないフレンドリーに接してくれ、また友好的に私の話に耳を傾けてくれた。宿舎も、地元ならではのお菓子を持ってきたチームもいた。文系の大会なので、でっさりそんな感じの人が溢れていると思ひ込んでいた自分が恥ずかしく。

思い込みがいえば大会の内容も、予選から想像されたものとは全く違った。チーム競技だけでなく、グループを組んでのプレゼンテーションを行うなど、最初は考えもなかった。……が、半分、いやそれ以上の、後援作業という短いながらも濃い時間がなければ、私達はこれほど経験を深められず、着落な思い出が残りませんでした。

今振り返っても、仲間の顔と分け目の過密スケジュール

は鮮明に思い出せる。(あ、あとイカ郎さんも) こうして大会を見つめ直すと、結果としては負けてしまったが、地区予選を勝ち上がった自分と一生懸命、全力で奮力する事が出来た。今の日本社会において、これ以上貴重な体験があるだろうか。

私はこの経験を、一生忘れないだろう。

福井大会代表 国立福井工業高等専門学校三年
田本 蓮也

【地区大会】今回はあまり時間もなく、地区大会に向けての勉強がそろそろなくなってしまった。当日の朝に時事のチェックを軽く行い会場へ。参加チーム数はおよそ30チームだった。予選のペーパークイズは前回よりも簡単に感じたが、点数はあまり伸びず、手ごたえは無かった。続く早押しクイズは危ないところもあったが、何とか3問正解して決勝行きのほぼ確実。結果、2位に決勝進出を許して予選1位で決勝進出となった。

決勝は昨年より難しい問題が多く出題されたが、難なくラストのダブルアンサークイズへ。相手が簡単な問題を引いてくれたので一発でクリアし、2年連続の全国大会進出となった。

【全国大会】今回は前回よりもスケジュールにゆとりがなく、学校が終わってすぐ空港へ向う。宿舎へ着いたときはすでに疲れ果てていたが、以前からのクイズ仲間と早押しに興じる。やっぱりクイズは楽しい。そして本戦1日目へ。

早朝にプレゼンのチーム決め。その後プレゼンチームでの話し合い。テーマが決まるまでに結構時間がかかってしまい、スライドが間に合うか結構ギリギリだったものの、何とか完成。夜遅くまでプレゼンの練習をして1日目終了。

2日目、バスで会場へ向かう。まもなくプレゼンというこで緊張がMAXに。1位は取れなかったが、全力でやったので悔いはない。その後僕たちが参加する早押しラウンドへ。

昨年の早押しラウンドではそこそこ押せていたため、今回も大丈夫だと思っていたが、みんな強いし早い。最近の高校生はどのようにこんなにも強いんだかと思ひながら何とか6問まで積んだものの、最後は完全に知識負け。自分が選んだ早押しラウンドで負けたのは悔しかったが、あまり対策できていない内容だったから、納得している。こうして僕のエコノミクス甲子園が終わった。来年はできる限り大会の手伝いをしたいと考えている。

最後に、大会を主催してくださった関係各位に感謝を。ありがとうございました。

山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校二年
藤原 未紗

エコノミクス甲子園を経験して最も感じたのは「視野が広がった」ことだ。

まず、金融・経済への関心が格段に増した。クイズプレイヤーでもなく経済に興味があるわけでもない私が参加した背景に、来年以降の山梨大会出場を助けたため参加人数確保に協力しようという不純な動機もあったというのとは大きな声では言えないが……勉強していく中で世の中の動きに関心をもつようになったし、きっかけはどうかあれ経済への興味が増えたことは大きな収穫だ。

そして、全国大会ではなんとというかすごい高校生がたくさんいることを改めて感じた。単なる知識の量だけではない。プレゼン準備では、メンバーの発想や蓄積点にはっとしたり、収支予算を丁寧に作成する商業高校の二人に衝撃を受けた。また、ニュースキャスタークイズにおいて、あの場で考えをまとめ堂々と話している選手はとて素晴らしいと思った。

しかし全国大会を振り返ってみると思ひ残すこともあった。クイズ自体より全国の高校生と会えることを楽しみにしていた私としては、日程が詰まっていたプレゼングループ以外の私とはほとんど交流できなかったことがとても残念だ。レディオ体操とかが省略されていたらもしかしたら少しはそういう時間もありました。成績についても、挑戦者の立場とはいえ悔しい結果だった。というより、もちろんできるだけ上位は狙っていたけれど、それよりもたくさんさんのクイズに挑戦したかった。特に決勝のクイズ形式が楽しそうに僕も楽しかった。

当初はかなり軽い気持ちでエントリーしたが、エコノミクスを通して様々な刺激を受け、貴重な経験をできたことは本当に良かったと思う。このように場を提供してくださったスタッフやスポンサーの方々、応援・期待してくれた友人や先輩方、一緒に頑張ってきた(というより一緒に頑張ってきた)人たち、そしてこれからのいろいろ頼りにして下さる方々に、心から感謝したい。

山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校二年
井上 もひろ

正直なところ、自分がエコノミクス甲子園の全国大会に出場していたとは今でも考えられません。思えば9月、学校で大会の案内を見て勢いで申し込んだことに始まり、地方大会終了後も、部活動の予定が重なっていることをそれまで全く考えていなかった私は、全国大会参加を逃して沢山の山に迷惑をかけた。最後に心を決めるまでにこんな経緯があったので、全国という大舞台に立ててくれて「どうしてここにいらんだらう」と不思議な気持ちでした。

しかし、この2日間が私の人生で最も刺激に満ちた時間であったことは、間違いありません。さすがは全国、結果を獲るところがクイズにもほとんど正解できず悔しい思いをしました。全国の優秀な人たちと出会えただけでも、お台場まで行った価値があると思ひます。特に、一緒にプレゼン準備をしたCグループのメンバーには発表の最後の瞬間まで驚かされました。発想、資料作成、機転、どれにおいても同じ高校生とは思ひます。自分の今まで生きてきた世界の狭さを実感しました。「大東工務」の仲間と真剣にプレゼンに向き合った時間は、経験したことのないことの連続でした。あまり力にはなれなかったものの、著道に楽しかったと思ひます。

エコノミクス甲子園は、私にいくらかの金融知力をつけてくれただけでなく、視野の広がりを経験させてくれました。グループ外の人たちとも話してみたい、もっと関心を持ちたい、と欲を書き置きするほどですが、「絶対良い経験になるから」と言っていてくださった先輩の言葉は本心でした。「良い経験」という以上以上の言葉で表せないのが残念ですが、それが私の実感でもあります。

最後に、支えてくださった全ての方々にお礼を言いたいです。厳しいスケジュールの中大会を運営してくださったスタッフの皆さん、地方大会の前からずっとサポートしてくださった「経験者」の先輩方、山梨で応援してくださった高崎の皆さん、そして実際のお願ひも快く引き受けて、一緒に出てくれた相手。本当に感謝しています。ありがとうございました。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校二年
熊崎 亮二

12月4日、ついにこの日がやってきました。「エコノミクス甲子園 岐阜地区大会」です。前日のSkypeを使っての勉強会や日々の学校での対策などで仲間とたくさん協力してきたので、優勝できないにしてもきっと良い結果が残せると思っていたのですが、まさか僕たちが優勝できるなんて思ひていませんでした。(何と絶対同校の他のチームが優勝すると思ひていたので…)優勝が決まった瞬間は今までのような大きな大会で結果を残した事のない僕にとっては天にも昇るような思いでした。

全国大会への進出が決まった次の日から、また全国大会に向けての勉強の日が始まりました。自分たちが出場するでもないのに対策会を開いてくれたり分らないところの相談に乗ってくださり、あの時に仲間が協力してくれたのには感謝してもしきれません。

結局から言えば僕たちのチームは全国大会の試合ではあまり良い結果を出すことができませんでした。しかし、優勝よりもっと大きなものを獲ることができました。それは人とのつながりです。見ず知らずのチームが協力して1つのプレゼンを作り上げるプレゼンクイズ、本戦前日に行われた食事パーティー、そしてレディオ体操などの楽しい活動(笑)。その1つ1つで人とのつながりというこの素晴らしい、楽しさを学ぶことができました。プレゼンクイズでの楽しみである口説のみんなに出会えたのは僕にとって大きな成長になったと思ひます。スタッフの方々を含め、全国大会で出会った全ての人や仲間がこの場を借りて感謝します。ありがとうございました。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校二年
長谷川 昇平

岐阜大会で優勝した時は正直不安だった。全国準備の先輩の後々に部内最強のK君じゃなくて僕が代表でいいのか。そして、どうしようと考えているうちに東京に来てしまった。

一日目の朝、プレゼンのチーム分けで運のいいことによく一緒にクイズする仲の相良と一緒のチームに選ばれた。このことで緊張がとれたと思ひます。やっぱり友達そばに居ると安心とつくづく思ひました。そしてその後の二十数時間は経験したことのないほど楽しく過ごしたものでした。市川、相良、藤、前本のみんなと楽しく意見を出し合い、作業して、名古屋旅館で盛り上がり(十人中五人が名古屋出身)、プレゼンを完成させた時の達成感は今でも感じたことのないものでした。本当にこの



全国大会感想 Final tournament report

仲間とプレゼン出来て良かったです。二日目のクイズは残念だったけど、とにかく二日間本当に楽しかったです。最後になりましたが、このような機会を提供してくださったたくさんの方々、本当にありがとうございました。

静岡大会代表 静岡県立島田商業高等学校三年 加藤 貴

静岡県では初開催となったエコ甲地区大会。何の情報も無いままあまり深く考えずに参加した私たちですが、結果はなんと優勝。これには正直驚きました。日ごろの商業教育の賜物と喜んだのもありましたが、いきなり全国への切符というあまりにインパクトの大きい(記念に解読さんからいただいたチケットも人の背丈ほどもある物的にビッグなものでしたが)ものを目の前にして、とりあえず口をバクバクするくらいしかできませんでした。

しかし、一呼吸おいて考えてみると、自分の立場が、個人→学校代表→県代表と変わり、少くも余る重責を背負うようになったわけですから、やむなく(といっちは失礼ですが)全国への勉強を始めたのですが、やはり自分の知らないことを知る、社会の仕組みを知るといったことは非常に興味深いもので、勉強の時間はいつもより短く感じるほどでした。

当初は勝ちを狙おうとは思わず向かった東京ですが、要領の「銀行員に聞きました」で予想外の9割正解。「案外いけるじゃん」と因に乗った私たちはそれとなく優勝を意識し始めるようになりました。地方大会出場時には考えられなかった思考回路です。

そこへやってきたのが「プレゼンクイズ」です。事故で情報漏えいがあったお題ですが、私たちの考えはあまりまとまらないうちに決まりました。慌てて考えを巡らしますが、集った頭では中々確信を築くことはできません。さて勝ったなあと思いつくかと思いつくかと思いつくか、ありかたな話ではありますが、手を差し伸べてくれたのは今日会ったばかりの黄チームの仲間でした。チーム全員で役割を分担してそれぞれが論を語る。出てくる出てくる。まさにブレインストーミングです。多くのアイデアが生まれ、それを徹底的に煮詰めていきました。

そしてその中で煮詰った案が「パン屋さん」というまるで少女の夢のようなアイデアでした。チームの相方、杉原がなんとパン屋さんを友人にもっているおかげで、パン製造にかかるコストや必要初期投資額といったことまで都合よく話が通じ、商業高校の強みである簿記会計の知識で予算を精密に立てました。実は原稿や資料の製作で一審時間や時間をかけたのが価格設定や予算編成を可能にするリアルにするところだったので、発表の際は時間の都合で説明しきれなかった予算編成ですが、深く印象に残っています。

当日は礼節で冷や汗をかかされたものの、なんとか準決勝へ進出。対戦相手が一番最初に選べるのとのことで機嫌よく進めましたが、以前から私が興味を持っている「TPP」がテーマということで、優勝候補の一角である奈良、東大寺高校に果敢にも一騎打ちを挑みました。【初出場の初優勝も、いやだからこそ、東大寺に勝とう。】

結果は残念なものでしたが、持てる知識のすべてを振り絞った栄えある結果です。私は県内の専門学校へ進学し、税理士試験にむけて勉強します。参加者の多くは専門学校へ進学するのですが、私も負けずに頑張っていきたいです。エコ甲で知り合った皆さん、ありがとうございました。いつかまたここで会いたいですね。

静岡大会代表 静岡県立島田商業高等学校三年 杉原 太郎

暗記は苦手だ。だからクイズは苦手だ。そんな私がなぜエコノミクス甲子園に参加したかといえば「経済が好きだから」だ。

そもそも、地方大会に参加する時点で甘く見ていたのかもしれない。事前に昨年の静岡大会の優勝校は浜松商業さんだったと聞いていたこともあって会場に行くまでは商業高校が中心の大会だと思込んでいた。ところが会場についてみたら参加者の大半がいわゆる進学校で「なんでこんな進校いながらここに集ったのか」と後悔。しかも静岡大会は今年が初開催というところで聞く。

しかし、なぜか地方大会を勝ち抜き全国大会に。事前に渡された大会の資料には瀬とカラ・サルとが本庄早稲田とかいわれる受験と叫ばれるものを経験したことのない私にも聞いたことのある高校ばかり。しかも商業高校は自分たちだけ。全国大会前には「行きたくない。もらった切符を払い戻して逃げようか」という冗談とも本気ともつかない会話を加味していった。もちろん、大会が終わった今では参加して本当によかったと思っている。クイズ大会で勝ったというより紙

を数えるのが正確だったというだけの気もするが何となく商業高校としての意地を見せることが出来たと自己満足している。もしかしたら自分たちのレベルに合わせていてくれただけかもしれないが、自分とは住む世界が違うと思ってた超上位校の人達ともそれなりに討論ができるといって気づけたから。

感想を言わせてもらえば筆記などのクイズのウェイトが小さいことに驚いた。また、あの内容を2日間で行うのは無理があると思う。体力勝負になってしまい、月曜日にはヘトヘトの状態で行くことになった。あと長崎南山さん、愛産価値最低はウチの学校ですでの念のため。

大会では負けてしまった。後からUstreamを見て自分のいささか悪態に驚いたが頭が高かったとこの場を借りて弁解させてもらう。不本意な結果だったので来年も是非参加したいが、私は三年生なのでそれは叶わない。なので後輩に未来をたくそうと思う。頑張れ静岡代表！

愛知大会代表 愛知県立旭丘高等学校二年 船越 大雅

私は、今年初めてエコ甲に出場しました。出場しようと思ったのは、「クイズ研究会の一員として、クイズ大会だから」であって、特に金融経済に興味があったからにはありませんでした。しかし、勉強するうちに少しずつ興味が出てきて、最終的には経済雑誌にも目を通すようになりました。今では一般的なクイズにおいても、経済は得意分野になっています。

地方大会では、筆記クイズではミス連発してしまいましたが、早押しで盛り返し、ダブルアンサークイズでは運が味方してくれたおかげで、なんとか全国へ駒を進めることができました。

私がこの大会のなかで一番きつと感じたのは、なんといっても全国大会本番前日のプレゼン準備です。というのも、経営については何をどう勉強していいかわからず、ある事業をやるにしても、それにかかる予算の桁数さえわからない状態だったからです。グループ内の話し合いでは、はじめのうちは用意してきた意見を話すことができたのですが、それが切れると、ほとんど何も話せなくなってしまう。自分の知識の運用力のなさに気付かされた。本番当日も、早押しはなんとか勝ち抜くもののやはり討論では知識をうまく運用できず、ほとんど覚えた単語の羅列のようになってしまいました。

ですが、この大会は本当に楽しいものであり、自分の課題を発見することもできました。関係者全員に本当に感謝しています。

愛知大会代表 愛知県立旭丘高等学校二年 宮川 輝

今回僕がエコノミクス甲子園全国大会に参加して強く思ったのは、「エコ甲はただのクイズ大会ではない」ということです。

その理由の一つは、プレゼンクイズです。今年のお題は「被災地の復興に役立たせるソーシャルベンチャーを提案せよ」というもの。非常に難しいお題で、しかも昨日日出会った人たちが協力して一つのものを作り上げるというのは大変な作業でした。ですがそれは、同時に完成したときの達成感やより大きなものにしていくというのにも関わらずありません。実を言うと僕は「たどクイズがしたい」という不純な(?)動機でこの大会への参加を決意したのですが、後から考えると一番心に残っているのはこのプレゼンクイズでした。

実はプレゼン準備の他にも、大会本番までにはいろいろなことがありました。よくわからない生物による「侵略」からの「レディオ体操」、突如始まった「クイズ銀行員さん」に聞きました。アンケートという名の筆記クイズ、みんなで盛り上げたパーティなど。たった1日の間に起こった出来事とは到底思えません。その結果、本番開始前にはほとんどの人が既に磨き切った表情をしていました。こんなクイズ大会が過去にあったのでしょうか。

大会の結果はどうだったかという点、僕らは早押しクイズ「アナマルサンバツ」をどうにか勝ち抜けたものの、準決勝の「クイズニュースキャスター」で敗れてしまいました。でも不思議なことに、優勝といった類の感情は起こりませんでした。

最後になりましたが、今回エコノミクス甲子園で関わったすべての方々、本当にありがとうございました。そして準決勝で戦った金沢大学人間社会学域学校教育学部附属高等学校さん、学校名を何度も間違えてしまっ申し訳ありませんでした。

三重大会代表 三重県立津高等学校一年 吉賀 諒一

この度、第6回エコノミクス甲子園全国大会に出場

させていたでいて、本当に感謝でいっぱいです。地方大会には完全なるノリで申し込んだのですが、クイズ研究部を倒してまさかの優勝！

その瞬間は、ただただ驚くばかりでした。というのも、地方大会では勝ち抜けるためにダブルアンサークイズという罠があり、出場したペアの二人ともが正解しなければならぬ問題で、僕の相方はその問題の答えがわかり、僕は全く分りませんでした。

その時点ですでに勉強不足は出ていましたが、その時は運よく勘的中し、見事全国への切符を手に入れました。

ですが、運がよいのはそこまで。さすがに全国大会ともなると、問題のレベルも跳ね上がり、ほとんどの問題がわからなかったです。

早押しクイズで数少なくなかった問題も、他のチームに取られて、三重代表としては散々な結果でした。

しかし、たとえ敗れながらも色々な結果でもって、今回エコノミクス甲子園全国大会に出場したことは、僕にとっていい経験だらけでした。

初の三重大会で三重テレビが注目していたため、優勝した僕たちのペアが三重テレビに出演し、全国大会では津高校の場から上の先輩とも知り合い、そして、全国大会のレベルを知ることができました。

大学受験は全国大会と同じなので、今ここで「全国にはこんなすごい人がいるのか!」と知れたことは、決して無駄ではなかったと思います。

今回エコノミクス甲子園に出場して、たくさんいい経験ができました。金融知識普及協会のみならず、スタッフのみならず、大会にかかわったすべてのみなさん、本当にありがとうございました。

三重大会代表 三重県立津高等学校一年 藤堂 祐樹

今回エコノミクス甲子園全国大会に出場し、私は全国大会のレベルの高さを痛感しました。

元々楽しそうだからという理由で早くに地方大会を終ってからのという私がすぐに敗退するのは当たり前といえは当たり前結果なのでありますが、それ以上にレベルの高さを痛感しました。特に早押しではボタンの押す速さを競うことすら出来ず、問題を最後まで聞いてもなんのこともわからないような状態でしたが、しかしそのような問題にも周りの選手たちはボタンを連打し、回答権を得られなかったことに全身で悔しがっているのを見て、自分の勉強不足が痛く感じられました。普段学校生活をいつも通り送っていただけでは経験出来なかったであろうことです。

しかし、早々に敗退してしまった私のような者にとってもこれ以外にも非常に良い経験を得ることができるのがこのエコノミクス甲子園全国大会の素晴らしいところだと私は思います。

まず、各地方大会を勝ち抜いてきた各地の優秀な方々と協力して一つのことに取り組み、そして交流することができたこと。こういっていいかもしれませんが、大会の随所に私達選手が楽しめる工夫がなされており非常に楽しいものであり、また事業計画を考える際に参考として受講させていただいたソーシャルビジネスの考え方やプレゼンテーションの技術などの講義はこれらからいつまでも生かしていくことができる貴重なものでした。例え参加するだけでも得られるものが非常に多くある大会だと書いても過言ではないと私は思います。

今回の大会に出場するにあたって私は知識不足を感じましたが、勉強する際には納税や年金などに関する日常生活を営む上でも必須となるような基礎的な知識までも私は欠如しているのだということに気が付きました。このような知識はどのような進路を選択するにしろなくてはならないものです。これを機にこういった金融知識を積極的に身につけていき、そしてまた次回のエコノミクス甲子園にも挑戦してみたいと考えております。

最後になりましたが、このような素晴らしい大会を開いてくださった金融知識普及協会やそれに協賛する金融機関や学生スタッフの皆様、本当に、ありがとうございました。

関西大会代表 滋賀高等学校一年 高橋 優樹

感想をまともな書けば本になるので出来事と簡単な心理描写に終始せざるを得なかった。読者の皆さんにはこの文章が溢れるほどのエコ甲に関わった全ての人への感謝を材料に執筆されたと思うことを承諾の上でお読み頂きたい。

全曜日。到着。いきなりだてが字数の都合上省略。土曜日。やたらと驚かされた記憶がある。ラジオ体操



全国大会感想

Final interview report

に誘われるが高校生は選一人としてこの誘いを信用していない。その場に書いてあった。案の定案内されたのはなぜか室内。するといきなりOBのOさんがガイアの旗を持って出現しイカダンスを強要。Oさんイメージが崩壊して劇とショックだがある意味この方が自然なのかもしれないとも思う。その後はよく覚えていないが確か二択クイズで正解率4割だった。その後はプレゼンの班分けと作業。役割分担がよくかみ合っており、全体的にもよく思い出している。でもここで思ったのは僕らには好機をつかみ取る実力が無かったのだから僕らの運が悪いわけじゃないという事。

え？どうしてかって？
僕らはまだ高1だからさ。

最後に日曜日。もう一日日曜日が欲しい。ただそんなことは優勝校以外みんな思っているから不手。はい、字数も足りないし詳しくは書かない。でもここで思ったのは僕らには好機をつかみ取る実力が無かったのだから僕らの運が悪いわけじゃないという事。

関西大会代表 瀬高等学校一年 比呂 蓮

悔しかった。あっさり、本当にあっさり、負けた。実際のところ、プレッシャーはあったのだと思う。前日優勝校という看板を持ちながら、そしてニューヨークに行った先輩の話を聞きながら、自分で行けるというあまりにも甘い考えを持っていった。関西大会にも優勝して、そんな甘い考えは増幅されていた。

そして、負けた。クイズもほとんどしないままに、負けた。

言い訳は何十個でも作れるけれど、でも結果というものがやはりそこにあって、それはつまり実力なのだろう。実力が備わってなかった。だから負けた。

得たものは本当に大きかった。いい大会だった。夜遅くまでプレゼンをつくった仲間と共に過ごした時間はそれだけかえのけないものだったし、細部まで磨かれたされた大会の運営はそれは素晴らしいものだった。だから、全国大会に出れたよかったと、それは自信を持って断言できる。

でも、それがどんなに素晴らしいものであってもやはり日目的は勝つことだったのだと気付いた。そして、負けた。あまりにもあっさり。

幸運であるのはまだ高一であるということだろう。まだ来年がある。また一年頑張れる。このまま努力したところで次は優勝できるというような確信は現時点では全く持てないけれど、あるいは今年よりも悪い結果になるというのもし十分考えられることだけれど、でもそれはそれとしてまた来年に向けて一生懸命やりたいという純粋な思いに今なっている。

実力は足りなかったのに筆記一位という栄誉を手に入れることができたのはまた頑張れ、ということだと思いたい。

また、東京で戦おう。

奈良大会代表 東大寺学園高等学校二年 横山 友亮

今回第六回エコノミクス甲子園に優勝したことを非常に光栄に思います。そこで皆さんへの感謝をこめてここに至るまでを振り返ります。

それは文化祭後のことでした。ペーパークイズでエコノミクス甲子園に出場するメンバーを決めることになりましたが、たった二点の差で勝負を制し僕と津山でチームを組むことができました。クイズに勝って名前を呼んでもらった時のうれしさは今でも忘れられません。

僕たちのたった練習方法は先輩と協力して早稲クイズやボードクイズの練習をすることでした。こうすることで知識の偏りをなくし連帯感を強めるという意図がありました。

もちろんエコノミクス甲子園は単純に知識が多いだけでは勝てないということが分かっていたので、全国大会に向けては一分間の論議練習や、金融知識普及協会のテキストを解説する練習をしました。こうして無事に地方大会を勝ち進み全国大会に進むことができました。後輩たちにはこの場を借りてお礼を言いたいです。

さて、全国大会の醍醐味はなんといってもプレゼンテーションクイズです。これは一日で「被災地の支援に役立させるソーシャルベンチャーを考案せよ」というお題に沿ってプレゼンを完成させるというものでした。僕たちは宮城県仙台第二高、富山県立高岡高、金沢大学人間社会学部教育学部附属高、広島大学付属福山山の八人と協力してプレゼン製作をすることになりました。皆それぞれ持ち味を生かすことができ、想像以上に楽しくプレゼンを作ることができました。

大会当日は「被災地の建物を再利用する」という僕たちのプレゼンが、一位をとることができました。他のグループのプレゼンも一日で作ったとは思えないくらい完成度が高かったので、その中で勝ち抜くことができて本当に嬉しかったです。

大会が終わった後は新幹線で帰る方面が同じだった広大福山の二人と、一昨日知り合ったばかりと思えないくらい打ち解けて話しました。大会のことから普段の部活のことまで話も弾み、新大阪に到着してしまうまでがとても短く感じられました。

エコノミクス甲子園は普通のクイズ大会と違って知識だけでなく発想力や協調性なども求められる厳しい大会でしたが、全国大会にまで勝ち上がれば、そこで全国に多くの友達ができ、夜を徹して共に行動するという一生残る素晴らしい経験をする事ができました。

本当にエコノミクス甲子園に参加して良かったと思います。このような素晴らしい大会を作ってくれた金融知識普及協会の皆様、学生スタッフの皆様、支援してくださった金融機関の皆様、大変感謝しています。また、一緒にプレゼンを作った仲間達、共に戦いを繰り広げた他校のライバル、一緒に練習した後輩達、そして共に戦った順方の津山、本当にありがとう。

奈良大会代表 東大寺学園高等学校二年 津山 隼

僕が、エコノミクス甲子園の全国大会に出場して、最も強く感じたのは、「人」のすばらしさである。地域や学年を問わず、経済が本当に好きな人が多くいた。みな知識欲が旺盛だった。プレゼンを作るにあたって、僕も自分が、自分の意見をしっかりと持っていた。自分も経済について勉強し、こうした人々と交流できて、本当に良かったと思う。

大会の中で印象に残ったことはたくさんあるのだが、ここでは、プレゼンについて書こうと思う。プレゼンの準備に当たって、同じグループの人たちと交わったさまざまな議論が、自分の将来への糧となったから、二年連続出場するチームが中心となって議論する中で、自分とまた違った視点の意見を多数耳にすることができた。

プレゼンテーマ「復興」は将来にわたって日本が抱える大きな問題である。この問題について、将来を担う僕ら高校生が活発な議論を交わしたことは、同じプレゼングループの10人全員にとって、非常に良い経験になったのではないだろうか。この10人から、復興に限らず、10年後、20年後には日本に大きく貢献できると信じている。プレゼンを通じてまた作成した際に、感謝したい。とても楽しかった。ためになった。ありがとう！

また、この大会に出場するにあたっては、部活の後輩をはじめ、多くの人の協力を得ることができた。エコノミクス甲子園に出場することによって、金融・経済の知識や理解を深めるだけでなく、多くの人と良い人間関係を築くことができた。大会期間中は奈良大会を主催してくださった南都銀行の秋山さんや、APFLのスタッフさんとも話し、楽しい時間を過ごすことができた。このような場を作ってくれたことに心から感謝したい。本当に、ありがとうございました！

最後になったが、僕のした貴重な経験も、これから多くの人に話してほしいと思う。僕が優勝報告に行ったときの目の輝きを忘れず、後輩にも、ぜひ全国大会に出場してほしい。そして他校のすばらしい人たちと交流し、成長してほしい。自分の「人間」が必ずや、大きくなるから。

では、来年以降もエコ甲が「拡大再生産」を続けて、発展することを願って〜

中国大会代表 広島大学附属福山高等学校二年 望月 洋樹

今回は、2日目の挑戦にして初めて全国大会へ出場することができました。前回の中国大会準優勝という悔しさ、悲しさを乗り越えたその機会に心は浮き立ちました。しかしその全国大会は、僕が思い描いていたものとは全く異なるものでした。

金融界に学校が終わってから急いで東京に向かい、土曜日の朝にはすでに活動が始まりました。その日は筆記クイズや銀行員クイズを行い、あとは翌日のプレゼンの準備に充てられました。

今回の全国大会において、僕が記憶が一番残っているのは、実はそのプレゼンの準備です。「被災地のためにできるビジネスを考えよ」というお題でした。僕たちBチームは、廃校になった校舎を使って復興を支援し、被災地に奉仕を戻そうという「復興」ビジネスを計画しました。チームメイト全員が熱心で、それに加えて持ち合わせた経済の知識を持って、活発に意見を飛ばし合いました。

また、チームメイトには被災地出身の子もいましたが、彼らの意見は非常に役に立ちました。今日の朝に出会ったばかりの人たちと、1日でこんなに議論が交わされるようになるとは思いませんでした。誰かの考えを聞いて自分が納得する、または自分の考えを伝えて相手に納得してもらおう。あの経験したこと、交わした言葉の1つ1つが翌日の大会本番に、また自分の将来につながっていました。土曜日の多くの時間を使って、それは深夜2時までには及ぶ過酷なものでありましたが、非常に良いものができたと思います。

日曜日の本番では、前日の疲労の甲斐あってプレゼンクイズでトップになったのでそのまま準決勝に進みました。準決勝はクイズニュースキャスターということで、僕はキャスター役となり、日本の雇用問題について60秒のスピーチをしました。このクイズではチーム内の2人での話し合いはできません。僕は大変大きな不安と緊張に直面しましたが、社会の授業で習ったことを必死に思い出して、伝えようと思ったことは一応は伝えたりもしています。何とかが決勝に進出できました。

決勝はリスクマネジメクイズということで、簡単に言えば「保険」を掛けながら戦うボードクイズでした。保険を掛けるかどうかは非常に迷いました。しかし今思うと、もっと自信を持って保険を掛けずにチャレンジしてもよかったのかなと思います。初めはリードしていましたが、最終的には3位という結果になりました。自分はまだまだ知らないことがたくさんありました。

エコノミクス甲子園で学んだことはたくさんあります。それは決して経済に関する知識だけではなく、自分と協力すること、他者と意見を交わすこと、自分の考えを伝えること、基本にして大切なことも学んだと思います。また、パーティーでの交流や食事を通して全国各地に友人を増やすこともできました。お互いの学校を紹介したりすることで、新たな発見も多かったです。ここで学んだこと、築いた友人を記憶にとどめ、明日からの生活、ひいては自分の将来とその夢に役立てていきたいです。

最後になりましたが、このような盛大な行事を催してくださった全ての方々、また一緒に戦った全国の高校生みなさんに、心から感謝します。ありがとうございました。

中国大会代表 広島大学附属福山高等学校二年 宮本 大地

僕が今回このエコノミクス甲子園に参加したきっかけは、経済が好きで、経済学が志望ということもあり、経済・金融についての知識を、この大会を通じて深めてみたいと思ったことにあります。

僕はこの大会で、大きく2つのものを得ました。一つ目は、経済・金融についての知識です。地方大会、全国大会で勝つために、配布して頂いた教材をはじめ、少しでも知識を増やし、思考力を鍛えようと、何冊か本を購入して、じっくりと勉強を進めました。最終的には、他人に「なぜそういう現象が発生するのか」や、「こういう現象が起こること、次はこういう現象が起こる」という説明もできる程度までできるようになりました。

そして二つ目は、共に全国大会を戦った他校の高校の方々との交流を通じて、新たに発見した考え方や価値観です。全国津々浦々から集まった方々には、色々な方がいて、気さくに話すこともでき、学んだことも多かったです。プレゼン時の皆さんは、本当に頼もしい方々で、同時に自分の未熟さを痛感させられました。結果、プレゼン1位を獲得することができ、プレゼン班の皆さんには本当に感謝してもしきれません。

金融知識は、人間として生活する以上、絶対に持っておかなければならない大切なものだと思います。これからも、新聞に目を通したり、時事問題をチェックしたりして、知識を深めていきたいです。今回の大会で学んだことを、今後の自分の人生に活かせたらと思います。そして、今度はスタッフとしてこの大会に携わっていくことができればと思っています。

最後になりましたが、このエコノミクス甲子園を開催してくださった金融知識普及協会の皆様、全国の地元の皆様、大学生スタッフの方々、そして中国大会を開催してくださった中国銀行の方々に、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

徳島大会代表 徳島県立城ノ内高等学校一年 須見 亮祐

「ようやく終わった。」帰りの飛行機から降りた僕の最初の一言はこの言葉だった。なぜこうなったかは今から説明する。

全国大会初日、僕は相方と共に胸をどきどきさせながら東京に降り立った。そして、付き添いの人と共に宿舎に着いた。そこで見たものは予想とは違っていたのだ。



全国大会感想

Final tournament report

た。立派なところだと思っていたのが、少年自然の家のような部屋、そして知らない高校との相部屋、僕達、徳島県チームは慣れない環境に戸惑いながら1日目を終えた。

全国大会2日目、睨い目をこすりながら集合場所へ向かった。そこで僕達はプレゼンの組分けをした。班のメンバーは全員年上だった。そして、班のメンバーと朝食を食べた。やはり、はじめの方は沈黙だったが、メンバーの一人が自己紹介をしようと言ってくれたのを皮切りにそこそこ話が盛り上がった。その後、元ネタは分からなかったが、レディオ体操というおもしろい体操をしてプレゼンの準備にとりかかった。僕は、この大会での一つの目標があった。それは、プレゼンで話にしっかりと参加することだった。なぜ、こういう目標にしたかというと、普段話し合いなどは面倒がって参加しないからだ。しかし、それが達成されることはなかった。話し合いについていけないのだ。それなりに対策はしたのだ。そこからは諦めた。最終日も、プレゼンのことをひきずってしまっただけで終わった。

この大会では、自分達がいかにか小さな存在であり上には上がっているということを実感した。来年もこの大会に出場するつもりだ。今年の経験を誇りたいと思う。

徳島大会代表 徳島県立城ノ内高等学校一年 佐藤 淳哉

ある日のこと、駅前でサラリーマンと思われる男性がピタ配りをしていた。受け取ってみると、「エコノミクス甲子園に出場しよう！」といううなものが書いてあったと思う。

直感でおもしろいかな、と思った私は一緒にいた相手の須見と知りあえず大会に出場することになった。

しかし、期末試験もあってなかなか勉強することもできず、ほとんど何もしていないまま当日をむかえてしまった。悔か必至とおもわれたが、一勝していた。徳島県大会優勝、急にニューヨークが現実味を帯びてきた。それから当日までは最大限の失敗を生かして、一生懸命に勉強をした。

全国大会を通じて私は多くの人と出会い、多くのことを感じた。まず、岡田の意欲の高さに驚いた。昔は知識を得るという事に関して非常に貪欲に思った。自分もそんななりに知識があるはずだと思っていたが、自分を見て自分はまだまだ甘いと感じた。また、昔はあらゆる場面で青春を謳歌しているのだなとも感じた。今まで自分の人生に充実感を感じたことがあまりなかった私には、そんな皆はとて生き生きとしているように見え、これまでの生活の仕方が悔やまれる。高校生活を悔いが残らないように毎日を精一杯過ごしたい、そんな気持ちになった。

最後になったがこのようなすばらしい成長の場を与えてくださった金融知力普及協会の皆さん、大学生ボランティアの方々、最大会からお世話になった阿波銀行の方々に深く感謝したい。

香川大会代表 香川県立高松高等学校二年 松岡 明宏

それは、大きな思い出だった。振り返って見れば、もう一年も前のこと。思いもよらない勝利が、僕を全国大会へと導いた。それが僕をエコノミクス甲子園に駆着させたきっかけ。しかし、全国大会ではあっけなく負けてしまった。悔しかった。情けなかった。自分の無知が、それだけではない。僕を遠かに遠く金融知力をお持ちの先輩方への憧れを持った。あんなりたいと思った。そして僕、この一年の経済学習が始まった。

そして、今年の全国大会。プレゼンでグループリーダーとして頑張ったものの、今年も勝ち負け残念な結果に終わってしまった。

何がけなかったのだろうか。自問自答の末、導き出された答え。それは、中途半端さである。自分の勉強の、目的に対する執念の中途半端さである。僕には、本気というものが足りなかったのだ。

これから僕は、多くの壁を越えていかねばならないのだろう。しかし、この大会を通じて学んだ多くのこと(それは経済に限らない)が、僕の力になる。中途半端はしない、絶対。

最後になってしまったが、感謝のことば。まずはともにチームを組んで戦った相方に、ありがとう。また、プレゼンを一緒に作ったEチームの皆さん、全国で戦った皆さん、ありがとう。この大会を運営していただいたスタッフの皆さん、ありがとう。僕を支えてくれている多くの皆さん、ありがとう。

そして、最後に。僕にこんなにも素晴らしい経験を与えてくれた、エコノミクス甲子園よ、本当にありがとう。

香川大会代表 香川県立高松高等学校二年 松本 渉

僕は、全国大会の出場は2国目です。幸運なことに、昨年も全国大会に出場することができました。昨年の経験もふまえて感じたことをいくつか書きます。

まず、昨年のことについて書きます。地方大会をサドンデスでどうにか切り抜けた僕は、全国大会が不安でたまりませんでした。エコノミクス甲子園のHPをみると、全国出場校に選りやう・サルマンなどの超有名私学の名前が並び、地方出身の僕達にとってはもはや次元の違う世界のように思えました。実際、金融知力のレベルとしてははるかに次元が違ったのですが、そうして迎えた全国大会、僕達もベンチマークは「やはり」1回戦で負けてしまいました。6チーム中3チーム勝ち抜けたところを僅差の4位だったので、とても悔しかったです。

博士重来を期した今年、僕達は再び全国大会に駒を進めることができました。去年同様のプレゼンクイズ、お題は「被災地復興のためのソーシャルベンチャーを考案せよ」というものでした。去年は、出場者のレベルに愕然として、何の手助けも出来なかったため、今年は頑張ろうと思っていました。しかし、今年も大した貢献もできず、プレゼンは5チーム中3位に終わってしまいました。やはり、経済の勉強だけでなく、プレゼンなど幅広い力を身につけることが大切だと感じました。

迎えた1回戦。僕達はボードクイズでした。(今年の1回戦はクイズ選択形式であったため)しかし、去年の悔いを期した今年も、あまりの問題の難しさに、1回戦で敗退してしまいました。去年と成績が変わらず、今年も1回戦敗退となり、悔しかったです。

去年・今年と1回戦で負けてしまいましたが、エコノミクス甲子園で得たものは多かったと感じています。まず、第一に、他校の高校生と友達になれたことです。どの高校もレベルが高く、お互いを尊重しあう存在となるとともに、一緒にいて楽しい仲間となりました。第二に、金融知力とは何かを、身をもって実感できたことです。僕は、金融知力とは、ただ経済の知識の暗記であって、インプットした知識をいかに活用するかの差だと思っていました。けれども、エコノミクス甲子園に出場して、金融知力とは単なる暗記にとどまらない、様々な分野で使われているものだという認識を得ることができました。他にもたくさん得たものがありますが、ここでは割愛します。

最後になりましたが、エコノミクス甲子園に関わった全ての人達に感謝。得た良い経験を書くことができ、本当にありがとうございました。

愛媛大会代表 愛媛県立松山西中等教育学校二年 山本 正太郎

私とエコノミクス甲子園の関わりは、一昨年の愛媛地方大会から始まりました。大した勉強もせず臨みましたが、運も味方につき決勝に出場することができ、非常に有意義な体験となりました。そして今年はその時の経験も活かして優勝を目指して地方大会にエントリーし、またまた幸運続きで全国大会出場までこぎつけてしまいました。

全国大会の宿舎に到着するとまず、自分たちがいかに全国大会をなめてかかっていったかを感じました。他の出場高校の皆さんは、明らかに勉強量が違い、現代社会や政治経済の勉強程度は私に比べてはるかに熱心で、後悔を覚えず全国大会本番に臨み、やはり実力全くと、短時間でプレゼンを仕上げたメンバーを見て、やっぱり全国大会に出場しただけであってすごい人たちだなと感嘆すると同時に、そのような人と対話をしていくことで刺激を得ることもできました。

準決勝進出を決める予選では、私達は真っ向勝負を避けて「シークレット」を選択して一か八かの勝負に出ましたが、「シークレット」の勝負内容は「礼賛」、いわゆるお札鑑定であり、希望通り勉強量関係なしの運勝負になりましたが、数えたこともない大金の鑑定はやはり上手いけませんでしたが、「礼賛」が来年もある分かりますが、アドバースとして、スピードよりも正確さを優先するほうが良いと思います。

結果は残念でしたが、非常に有意義な3日間を過ごすことができました。後輩にも出場を勧めようと思います。

最後になりましたが、伊予銀行さんに感謝申し上げます。

愛媛大会代表 愛媛県立松山西中等教育学校二年 松本 輝吾

今回は貴重な体験をありがとうございました。この大会は私にとって初めての全国大会でした。全国各地から高校生が集まるこの大会への出場が昨年から私の目標でした。

今回は貴重な体験をありがとうございました。この大会は私にとって初めての全国大会でした。全国各地から高校生が集まるこの大会への出場が昨年から私の目標でした。

全曜日(宿舎)に着いて緊張して会場に入ると、静岡代表の島田商業の先輩達と同じ部屋になり、楽しい時間を過ごしました。

土曜日の目玉はプレゼンクイズの準備でした。今まで聞いたなかで最も興味深いものだった中西先生の講演を聞いた後、プレゼン作成に取りかかりました。私たちの学校ではよくプレゼンを作るのでプレゼン作成には自信があったのですが、初対面で互いのことをよくわからない人々と作るのはとても大変でした。プレゼンに必要なものは知識はもちろん、全員の見解をまとめる能力やコミュニケーション力、相手の心に響くような発表をする力などが必要だとわかりました。夜のパーティでは学生スタッフの方達のビンゴやコントなどのおかげでとてもリラックスした楽しい時間を送れました。

そして日曜日。待ちに待ったエコノミクス甲子園大会。会場のプラザ平成はとても広くてきれいな会場でした。プレゼンクイズでの優勝と私たちが選んだのは、シークレットクイズ。つまり隣の私塾クイズでした。あのあせりと、数えられなかった悔しさは忘れられません。自分達の力は充分には出せなかったけれどとてもいい経験になりました。

最後になりましたが、金融知力普及協会の皆さん、学生スタッフの皆さん、そして地方大会を運営してください伊予銀行の皆さん、素晴らしい大会を本当にありがとうございました。

九州大会代表 熊本県立熊本高等学校二年 岡本 一洋

今回のエコノミクス甲子園を通して現代社会における経済学的重要性を改めて感じました。中学校から社会の好きな自分でしたが、経済だけはどうしても好きになれず、ずっと避けてきました。しかし、友人からエコ甲出場を誘われ、事前教材で何回も何回も経済の仕組みや知識を学ぶにつれ、どんどん楽しくなってきました。クイズ大会という先人観から事前教材での学習は捗ったという面もありますが、本当にこれからの人生に役に立つ知識を増やせることができたかと思っています。福岡での九州大会は優勝候補と謳われ、緊張し、プレッシャーを感じた部分も大きくなりましたが、その緊張を力に変えることで本当に優勝することができたと思います。全国大会では全国の強豪チームと協力、対戦することでライバルとしての絆が芽生えたかと思えます。結果は準決勝進出止まりで、自分の勉強不足が原因であると反省していますが、これまで行けた場力に感謝し、全国の強豪相手とここでよく戦ったと思っています。自分の性格上プラス思考なのでマイナス的な考えは出来ませんが、人生の糧にはなったのではないかと考えています。勉強不足で全国優勝を逃したことは本当に反省していますが、この大会で自分の課題も見えてきました。ので、これからの人生に役立てて頑張りたいと思います。

九州大会代表 熊本県立熊本高等学校二年 甲斐 寛之

私はエコノミクス甲子園を単なるクイズ大会だととらえていました。というのも、私はクイズ研究会に所属しており、「全国高校生金融経済クイズ選手権」という名称から、私達が普段クイズ研究会としてやっていたうちの経済ジャンルの問題が出題されるのだらうかと思っていました。だから地方大会の一週間ほど前、「事前教材をやればいける」という公式 twitter の情報から知られてきて聞いてもいなかった事前教材をばらばらとめくったのは幸運だったのでしょうか。それまでは少し経済の教科書を見るくらいだった勉強が、事前教材をやりつくすものに変りました。どの教材も、今まで知らなかったけれど、重要と思える実用的な内容がわかりやすく書かれていたため、とても読み易くあり、一気に読み進めてしまいました。しかし、対策にかけた時間も少ないとあって九州大会は苦戦し運にも助けられた優勝となりました。全国大会はそんなことでは駄目だと思ひ、チームメイトの岡本と共に、九州大会と比較にならない量の勉強をしてみました。そのお陰か BnG クイズを突破することが出来ました。しかし私は見て、大きなミスを知っていました。最近のニュースを見てもなかったのです。「知識は使って役に立ってることこそが大切」という大会の趣旨を思い知らされ、あんなに準決勝で敗退してしまいました。エコノミクス甲子園は、今知っておくべき知識が身につくのかをあくまでもクイズ形式で問われているだけで、クイズ大会として向き合っていた自分こそでつまらずに済んだのだらうかと思ひます。もちろん、大会はスタッフの方々のお陰で、とても面白く、いい経験させて頂きました。中でも2日目



全国大会感想

Final tournament report

の土曜日は杜絶でした。ラジオ体操はそれらしき何かをやった後でいきなり発目のクイズがあり、昼食後のアンケートということで気を抜いていたところにペーパーテストと、「次は何が起きるのか」と大変スリリングな一日でした。中でも大きいのは、今ではエコ甲恒例となっている、「プレゼンクイズ」です。「被災地の経済を復興させるソーシャル・アントレプレナー」を考えよということで、各グループ内で盛んな議論がなされました。しかし、中々話についていけないまま。今日のテーマはある程度予測できたのに、何もしていなかった自分はその輪を受け継ぐことになりました。翌日の発表で一位は取れず、もちろん他のグループの発表もとても良く考えられていて、自分ががんばっても一位がとれたかはわかりませんが、今でも悔やまれます。私にはこれら2つの悔いがありますが、この大会を通して気づけてよかったと思います。これからは今起きていることを知り、自らの知識とあわせて「どうすればいいの？」ということについて深く考えることにしました。そして、来年は、受験を控えておられますが、再び戻って来るべく、もっと経済に携わりたいと思います。今回はこのような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

長崎大会代表 長崎南山高等学校二年
山口 哲郎

今回、初めてエコノミクス甲子園全国大会に出場しました。最初のきっかけは、もともと経済が好きで経済、経営学部などを志望していた私にとって、何か得るものがあるかもしれないという思いが生じたこと、自分の経済に関する知識を日経 TEST 以外で試せるということもあったので、県大会出場を決定しました。そして、毎日必ず日本経済新聞を熟読しながら対策教材に取り組みを続け、予選5位からの大逆転で、見事全国大会出場を果たしました。

全国大会で一番感動を受けたのは、初日の中西武本先生の講演でした。大手外資金融の部長職を離れて、環境専門のコンサルティング会社を興したということに驚きました。また様々な企業事例を聞くことができたのも、すごく自分にとって糧になり、苦手としていた企業戦略や、マーケティングをもっと勉強しようという思いにさせてくれたのも事実です。また、その講演をもとに5チーム合同でプレゼンを作成したこともいい経験になりました。

結果的には予選で敗退しましたが、自分にとってすごくいい経験がすることができました。

今回のエコノミクス甲子園は、自分に、「経済とは何なのか」ということを再考させてくれることになりました。今まで見ていた世界観は180度変わり、ものの見方、考え方に変化が生じたことも事実です。今回の経験を生かし、これから先、もっと経済に関して、深く広く学んでいこうと思います。

長崎大会代表 長崎南山高等学校二年
中山 徳彦

僕は先日、エコノミクス甲子園全国大会に参加させていただきました。僕と相手の山口君は長崎地区で優勝したのですが、決勝まで勝ち上がった6チームの中で5位で何とか勝ち上がったという状況でした。地方大会での苦しい思いを心に抱えたとはいえ、全国大会に臨みました。これからは印象に残った出来事について文字を綴っていきます。

まず最初に印象深いのは、プレゼンテーションをしたことです。僕たちは北海道、秋田県、三重県、沖縄県の代表とグループになり、プレゼンをすることになりました。始めはなかなかうまく自分たちの意見を疎通させることができず、行き詰っていましたが、徐々に改善されていきました。その結果プレゼンで準決勝進出はなりませんでしたが、自分たちの納得のいくいいプレゼンを作ることができたと思います。

次に印象に残った出来事は、前夜祭の余興として行われたビンゴゲームです。さまざまな高校や大学、銀行、会社から集まった人たちが交流することができました。

最後に僕は他校の人たちと親睦を深めることができたことが心に残りました。めったに他校と交流する機会がない僕でしたが、この経験が心の糧になることだろうと思います。

今回のエコノミクス甲子園全国大会でお世話になった方々に感謝します。

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校二年
石野田 真之介

関係者の方々、お疲れさまでした。そして本当にありがとうございました。

貴重な体験をすることが出来てとても楽しかったで

す。・・・と中学生が書くような文章で始めてしまいました。

では特長列挙に感想とか。
まず、東京は一地方自治体ではないですね。既に国家ですね。鹿児島なんていう田舎から来たらもうスケールの桁が違いますね。東京に住むようになって決めて慣れ無さそう感じがしました。

そしてこの準決勝ステージである。まあ今日は両方の日に寝たというところでそこまで厳しくはなかったですけど、月曜の授業3アくらい寝たレベルには疲労がありました。

相部屋の昭和薬科の方々はずごく気さくな人たちで、少レコミュニケーション能力に障害のある私でも気軽に話せました。

あとTwitterで知ってる人たちもちらほら。「名前聞いたことあるー」な人たちもちらほら。

金曜にやった早押しがエコ甲の余興部分で一番楽しかったかも。(ほ)

ここらへんで悪い大人の冗談が湧き出た片鱗が垣間見えました。

まずはレディオ体操。直で見るわ！とフッコみたい気持ちでどうにかおさつ。

あげくのはにて「Eじゃん、物知りだねー」とりっちゃんの人知らない感じがひどいペーパー第25問。律は総がめだから個人的には一番好きなんだけどね。つまり超は俺の嫌いなだね。どうでもいいね。

プレゼンを5箱に分けて話し合うときが一番白熱してましたね。最初は話についていけなくて若干気後れしてましたが、午後になると少し協同に参加することが出来ました。Windows2000のPowerPointを使ってプレゼンを12時00分05秒に作り終わったのもいい思い出です。

残りの4チームに感謝。
結局たまたまという結論が「行商」。会津学風がいるから福島について再生したかったんだけど、考えきれなかったってのが実情かなと思います。

全国大会当日。
プレゼンは自分が考えてたレベルの発表はできたかな、と思います。

俺らの目から見てもBがすげえな、と考えてたのでBがトップだった時はやっぱり、という結論でした。

でも筆記+数行+プレゼンが他のチームにはほとんど影響を受けなかったのがちょっと不満。まあランク的には下だったのでもいんですけれどね。

いやもう手も足も出ませんでした。強いて言うなら事前学習教材じゃなくて市販のもので勉強したのが仇だったのかな、と思います。地方大会は乗り切れたんですが、早押しだけは良かった。後になって悔やまれます。

高校に入ってから全国大会を目指して、高1は出れなくて、高2で1回限りのチャンスで、全国行けて、それだけで良かった。だけど、歌を言えば、もうちょっと舞台上に立っていたかった。

ニュースキャスターもしたかったし、リスクマネジメントもしたかった。

(悔しいからうちのQ研でリスクマネジメントしましたよ・・・くすん)

すごく貴重な体験でした。人生またない機会でしょう。楽しかったです。

・・・出来れば大学入ってスタッフしたいです。でも志望が京大なんだけども(ほ)

以上です。

結構感想文らしいことが書いてなくてすみません。

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校二年
和田 博

夏のライオンクイズとは違う、知識だけではなく、表現力など必要な両面的なクイズ形式が面白かったです。結局1回戦で負けてしまいましたが、見て楽しむものでもした。あのニュースキャスター方式をみて、よくなる批評家とかコメンテーターとかの知識、文章力は凄いなんだと思うようになりました。

今年度初参加でしたが、かなり楽しめた自分では思っています。初日のイカ娘で笑い、講座で様々なことを学び、プレゼン制作で新しい仲間ができ、夜にはタダで美味しいものを食べ、本番当日では仲間と励まし合い、とてもいい思い出となりました。また、中途半端な知識では勝ち残ることができない、厳しいものだともわかりました。経済は奥深いものなのだと実感し、また将来役に立つと思い、いま経済を勉強中です。来年は受験生なので参加はできませんが、今回の体験を機に今から勉強していこうと思います。あとパワーポイントの使い方をマスターしようと思うきっかけとなりました。

ただ、今回は今までになかった(らしい)トラブルが多かった気がします。プレゼン制作時のミス、大会当日の時間的大幅な遅れなど。パワーポイントのバージョンが2000だったのはかなり驚きました。来年はこう

いうことが無くなってほしいです。あと、ちょっとアニメなどのネタが多すぎた気がします。特に筆記試験の選択の最終問題での「けいおん！」のネタは知っている人にもあまりにも有利になっていて、どうかと思います。個人的には嬉しい楽しいのですが、わからない人にはつまらないものだ。

沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校二年
上原 雅博

今回のエコノミクス甲子園は、驚きの連続でした。初めに驚いたことは、二日間の大会日程がざっくりだったことです。朝早くから日付が変わるころまでのアクティビティ・アトラクションは、とても楽しいことばかりで内容も濃く、充実した二日間でした。特に、「被災地復興への社会貢献型ビジネス」のプレゼンテーションまでの作業は思いの外に残るものでした。中西武本さんの約2時間及び講演は、第一線で活躍されている方の生の声を聞くことができ、またとても貴重な機会でした。営利目的の株式会社であっても、5年生を養育する率は15%であるという驚しい現実のほか、SWOT分析、ポジション分析などを学ぶことができた有意義な時間でした。日本全国から集まった初対面である同世代の学生と一つのモデルに向かって、何時間も議論、作業を行うことはとても刺激的で、全国のつわものど盛り合えたような気がしました。また、イメージ通りの「いかにも」な参加者だけでなく、気さくな人が多かったこともある意味印象的でした(笑)。

プレゼンテーションの結果は、一抜けではなかったものの、皆の声を結集してよいビジネスモデルに仕上げられたと思います。

大会二日目は、いよいよ本番。とても緊張して、ブラザー平成の舞台上に上ることになりました。一が争奪だったのはこのまで。見事に我々が沖縄代表は、一回戦で「蘭の礼贈クイズ」ルートを選んでしまい、ジ・エンドでした。沖縄大会からこの日を待ち望んで頑張ってきたにもかかわらず、僕たちの晴れ舞台は約5分で終了することになってしまいました。無念・絶望以外の何物でもなかったです。僕の「僕は電子マネー使ってるので大丈夫です。」という僕のバグがエコ甲名実大賞2012に選ばれたので結果良し……ではないのです！(涙)

沖縄の先輩方をはじめとした多くの気さくなスタッフの皆さんと、金融業界のお偉い方々、そして沖縄銀行の方に支えられてとても楽しい高校生活の大イベントに参加することができました。すべてが精密に練られた今大会を大きな財産としてこれからの将来を頑張っていきたいと思えます。ありがとうございましたエコ甲2012！！

沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校二年
久田 友樹

エコノミクス甲子園に参加するきっかけとなったのは学校の先輩のおかげでした。

当時中学三年生だった私は今大会と一緒に上原と一緒で、先輩が出るということで沖縄大会を見に行きました。普通のクイズ大会とは違って私たちが身近な生活に関係する問題や、興味深いクイズに惹かれました。そして、学校の先輩が沖縄大会を優勝し、全国大会の様子を見て、「高校に入ったら、絶対に、全国大会に行きたい」と強く思いました。高校に入り、第5日大会の沖縄大会に参加し、決勝ラウンドまで進むことが出来たのですが、付け焼餅の知識で、他の参加者と張り合うことができず、悔しい思いをしました。これでは終われないと思い、リベンジも兼ねて再び沖縄大会に参加し、今回の全国大会に出場させていただきました。

エコノミクス甲子園は、金融、経済の知識があるだけではなく、さまざまな授業が必要だと感じました。エコノミクス甲子園は、知識を人前でうまく表現する力が問われることが多くありました。私はプレゼンの時に、ひどく上がってしまい、言いたいことがうまくいえず表現する力が不足していたことを痛感しました。

そしてエコノミクス甲子園で知識よりも何よりも大切な物があることを学びました。それは「運」です。運というのは問題の運、クイズ形式の運です。私たちは第4ラウンドで「礼贈クイズ」にあたりました。礼贈はどんな知識があっても歯が立たない。きめられた枚数のお札をしっかりと数えてこそ勝利に近づきます。私たちはお札を数え間違えたこのラウンドで敗退しました。エコノミクス甲子園は運も味方につけなければいけません。できれば、審査する時、お金を人が数えるより機械で判定し、時間を短縮してほしいです。

エコノミクス甲子園は普段の高校生活では出会えないような人々や環境に出会える事が出来、とても楽しかったです。私はこれからの日々の生活にも生かしていこうと思います。

NY研修旅行の様子と感想 Study tour

東大寺学園高等学校 津山 隼



研修旅行でまず最初に訪問したのは、生命保険を扱うブルデンシャルだ。アメリカに加え、日本やブラジルなどでも事業を展開するブルデンシャルは、地域や国の実情に合ったサービスを目指しているようだ。最も成功している国・地域は、アメリカではなく日本だ、という意外な話を伺った。また、生保会社は顧客の全人生にわたるパートナーとなるため、長いスパンの商品を開発・提案するようである。また、震災後の方針転換について尋ねると、募金などの支援活動は行ったものの、根本的な方針は変わらない、との返答をいただいた。経営が安定した企業ならではの、強固な方針を持っていることに感銘を受けた。また、日本は成熟しているため早晩に中国などの新興国に負けることはない、との見方を示していただき、日本も捨てたものではないのだと感じた。

次に、日本総領事館を訪れた。日本は思ったほどアメリカに見下されていないことを聞き、日本が「Japan as No.1」とみなされなくなったとはいえ、一定の地位を認められていることを知った。一方で、日本ではリスクを過度に嫌う傾向があり、ベンチャービジネスに対するハードルが高い。「ベンチャーは1000に3つ」という言葉が示すように、ベンチャーは失敗して当然のものであり、成功するためには、挑戦回数を増やすべきだと伺った。「挑戦を増やせ」とのお言葉は、高校生の僕にとって、身にしみて感じられた。

さらに、ラッセル・インベストメントも訪問させていただいた。ここでは、さまざまなファンドマネージャーが作るファンドの中から、優良なものを選び出して、別のファンドを作る、ファンド・オブ・ファンズを多く取り扱っている。こうすることで、たとえばCITI株を、Aファンドが売りたいと考え、Bファンドが買いたいと考えるとき、社内で売買を行う形式をとることで、売買手数料が削減できる。このような細かな点にまで配慮している点には関心させられた。またラッセルは、独自の株式指数を算出している。日経平均やTOPIXなどと異なり、「もれなく、重複なく」あらゆる上場株式を交えて算出されるのがラッセル3000と呼ばれる指数である。単に投資運用を行うのみにとどまらず、投資情報までも自ら作り出す能力に、レベルの高さと、自社の能力に対する自信が感じられた。



ブルームバーグでは、透明なオフィスをはじめとする開放的な空間構成に、予想以上の自由さを感じた。また、ブルームバーグでは、営業職に就く前に、必ずヘルプデスク業務を経験し、高度な情報が得られるブルームバーグ端末の操作に習熟するようだ。ブルームバーグニュースのキャスターは、自分で原稿を作成するというお話も伺い、一人の人間が複数のスキルを持つ、効率の良い企業であることが良くわかった。

企業のほかにも、FRBミュージアムや、金融経済博物館を見学した。WALL STREET JOURNALの第1号の展示を見るとともに、古代からの貨幣発達の流れを理解することが出来た。



NY研修旅行の様子と感想 Study tour

今回の研修では、9-11テロ以降、一般人の入場が認められていないNYSEに、CITIの方の紹介で入れていただいた。09:30の会場の様子とともに、新規上場の様子も目前で見ることができた。また、NYSEの方から、「近年の石油高騰はスペキュレーションだ」「オバマ政権は無能だから、インフレを阻止できないだろう」などの大変率直な意見をお聞きすることができるなど、感動と興奮の連続であった。

NYSEのほかにも、CITIの方には、CITIのトレーディングフロアを見学させていただいた。ここでは、理系先攻でありながら、職種別採用を希望して、外資系金融機関に就職した方にお会いした。CITI以外の企業でも、理系から金融関係の仕事に就いた方が多数おられ、人生の進路は未知数だと実感できた。また、日本人でありながら、長年アメリカ株式を担当しておられる方からは、相方の横山の質問に答え、デリバティブについて詳しく解説していただき、理解を深めることが出来た。

さらにCITIでは、No.2の地位に当たるVice Chairmanにお会いした。Vice Chairmanになるためには、勤勉さとともに運も必要だとおっしゃった。エコノミクス甲子園で優勝した僕は幸運だ、と述べると、君もVice Chairmanになれるかもしれない、という大変ありがたいお言葉をいただいた。

最後に、タイガー・アジア・マネジメントを訪問した。ここでは、非常に陽気で、ポジティブな方にお会いし、大変好印象を受けた。常識的な感覚を持ち、日常生活においてふとしたことに気づく姿勢が、投資を行う上で大切だ、とおっしゃった。仕事に限らず、日常の場面でも役立つ、貴重なアドバイスを多数いただき、大いに今後の人生で役立つこととなるであろう。

以上が、ニューヨーク研修の報告である。この研修によって、経済・金融に関わる問題の理解力はもちろんのこと、語学力や人間力も向上させられたと思う。この研修を受けることが出来て良かったと心から思っている。お世話をしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。



Todayji-Gakuen senior high school (located in Nara) Jun Tsuyama

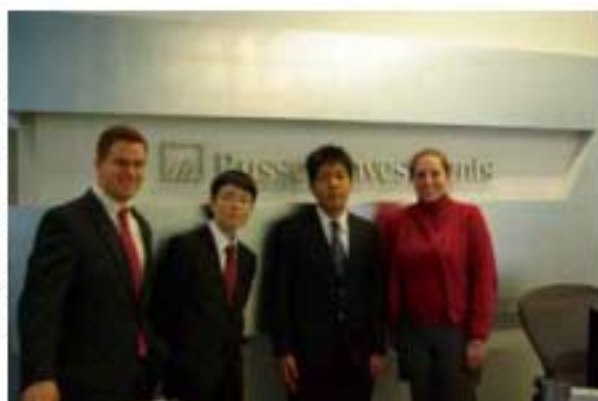


I first visited Prudential. Prudential provides their services in Japan, Brazil etc. as well as U.S. It aims to match their services to the local needs. I heard they are most successful in Japan, not in America. That was a surprise to me. And they make it a point to create a long-term insurance so as to accompany with their customers through their whole lives. They said, answering my question, after the big earthquake in Japan their radical policies had not changed at all. These strong policies illustrates the stability of Prudential. And they view mature Japan can compete with growing China. I thought Japan is still not dead.

My next visit was to the New York Representative Office of Japanese Ministry of Finance. I learned Japan is still recognized as a certain position not as No.1. I also learned Japan avoids risks too much so venture businesses are hard to be launched in Japan. As the following phrase clearly shows that venture business is very likely to fail: "You have

only 3 successes out of 1000 in venture business". So trying again and again is required to succeed, they told me. This phrase seems the best suitable for the young like me.

At Russell Investments fund of funds is a common products. They can reduce selling and buying costs by increasing them. I was impressed they consider such an inconspicuous points. Russell has their own stock index called Russell 3000. Unlike TOPIX or Nikkei-225, it is calculated using all equity prices listed in the stock market. I think creating information needed to their business shows their high skill and self-confidence. At Bloomberg, I was impressed with the transparency of their office. In their company, before working as a sales staff, employees experience the work at helping desk in order to learn the skill to operate Bloomberg's information system. And I heard anchors of Bloomberg News write manuscripts of their own. I felt they are very efficient.





I could enter the NYSE in the course. A person at NYSE told me some interesting things: "The Obama Presidency is not competent. They won't be able to stop the inflation." Rising oil prices these days is made by speculation." I was highly excited about his frank stories.

At trading floors in CITI, I had a chance to see a Japanese man who majored in environmental engineering. He got into a foreign-affiliated company because he wanted to be employed separately according to kinds of occupation. I could see how uncharted my future course is. And a Japanese dealing America equities for a long time explained about derivatives very clearly. I could deepen my knowledge about derivatives.

I met a Vice Chairman at CITI. He said to be lucky is necessary to promote to a vice chairman as well as to work hard. When I said I was lucky to win the Economics- Koushien, he told me that I may become a vice chairman some day. This was a very happy words for me.

My last visit was to Tiger Asia Management. I met a cheerful and positive person. He said realizing minor things in daily lives with a common sense is the key to be successful in investments. His advice was helpful not only in doing business but also leading everyday lives.

Through this course, I could improve not only my understanding of economics or finance, but also linguistic skills. In addition, I grew larger as a human being. I heartily appreciate those spared a lot of time for me. Thank you very much!



東大寺学園高等学校 横山 友亮



ニューヨーク研修旅行一日目は、国際連合の本部を見学に行きました。東日本大震災の事が大きく展示され、現地のガイドから復興にかかわる話を聞き、日本の復興が世界的に大きな注目を集めているということが分かりました。

二日目には、エコノミクス甲子園のスポンサーであるブルデンシャルジブラルタファイナンシャル生命保険株式会社を訪れました。そこでは、財産を必要な人に分配する生命保険の役割や、確率統計を用いて保険商品の価格を決定するアクチュアリという仕事について、教えていただきました。その中でも特に、二項分布を用いた死亡率の想定の話が興味深く、理系のプロフェッショナルとして、生命保険の根本に係わる人から話を聞くという、とても貴重な経験ができました。生保の紹介の後には、社内の見学をさせていただきました。社員でも入ることの少ない重役専用の会議室やCEOの席を見せてもらいました。次に日本領事館の金融経済部を訪れました。そこでは、業務内容やアメリカのビジネスについての話を聞きました。その中でも特に印象に残っているのがベンチャービジネスの話で、アメリカは政府や企業の成功者が企業を支援する仕組みが整っていて、新しい技術や製品を生み出しやすいというものでした。

次に投資運用会社のラッセルインベストメントを訪れました。ラッセルでは、日本人ではなくネイティブスピーカー二人に対応していただきました。投資関連の業務の中でも、TOPIXやダウ式平均株価と同じカテゴリであるが中小企業も含めたラッセル社独自の株価指数を開発するという話や、投資ファンドに投資するファンドオブファンズの話が特に印象に残っており、ラッセルの多角性と効率の良さを学ぶことができました。



NY研修旅行の様子と感想 Study tour

三日目は経済情報の放送局のブルームバーグを訪れました。世界の経済金融情報を確認することのできるソフトウェアを、紹介していただきました。そのソフトを使って、東芝とサムスンの株価を比較することや、大企業が一年以内にデフォルトするリスクの解析をしていただきました。その後、社内の見学をさせていただきました。「透明な情報」というコンセプトに基づいて、オフィスはすべてガラス張りでした。社員がリラックスして働けるように鯉が泳ぐ池や熱帯魚の水槽、近代アートなどが、社内の至る所に配置されていて、驚きと目新しさの連続でした。企業見学の後は経済金融博物館、FRB博物館、メトロポリタン美術館に見学に行きました。経済金融博物館では十八世紀の電子化されていない株式や債券、金本位制だったころの兌換紙幣に、美術館では古代エジプトの壁画や石像に心を惹かれました。



研修最終日にはシティバンクを訪れました。

朝早くから重役の方に案内していただきました。初めは株の取引部門のアジア株を担当している方に、話を伺いました。近年、株や債券の取引は電子化が進み、投資に係わる人が減ってきているとのことでした。また今回の研修では、普通の観光客の入ることのできないニューヨーク証券取引所を見学させていただいたのですが、電子化の影響で人手が不要になり閉鎖されてしまったブースがたくさんあり、取引の電子化が金融業界に与えた影響はとてつもないものだと思います。シティバンクの方によると、証券取引所はニーズが無くなりつつあるとのことでした。ニューヨーク証券取引所見学の後は、シティバンクの顧問弁護士の方と話しながら昼食をとりました。その中でも、アメリカから見た日本経済の話が印象に残りました。日本の経済事情は中国や韓国に比べて、あまり注目されていないそうです。日本の経済状態が停滞しているのだということを感じさせられました。そして食事の後は、シティバンクでCEOに次ぐ地位のバイスチェアマンに面会させていただきました。一通りの

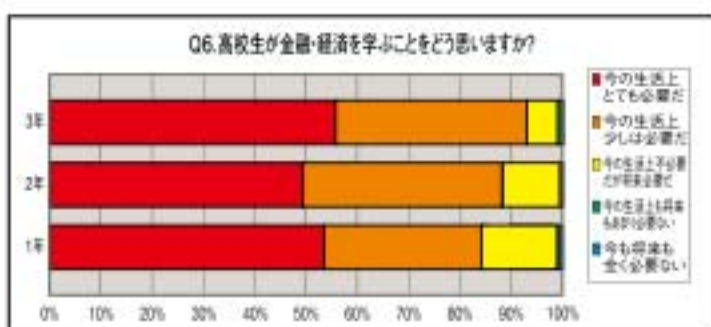
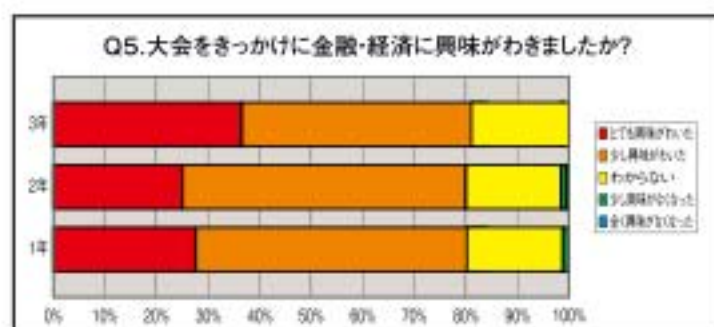
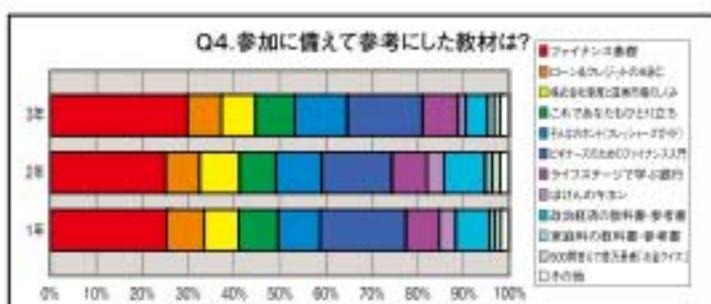
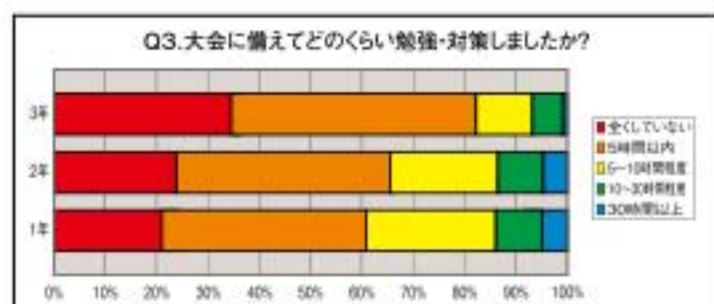
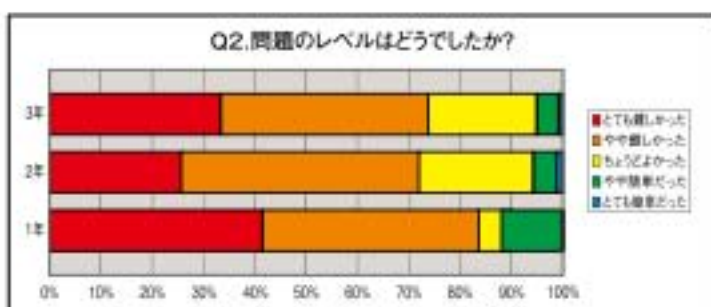
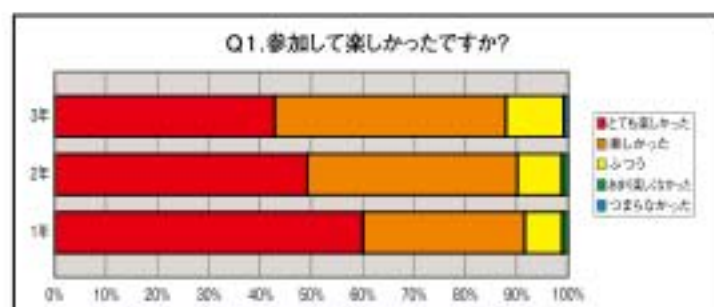
挨拶や自己紹介、会社の紹介のあと、相方の津山のどうすればシティバンクのNO.2になれるのか、という大それた質問にも、笑顔で、勤勉が大事で運も必要だと話ってくださいました。

ニューヨーク研修の最後にはヘッジファンドのタイガーアジアマネジメントを訪れました。ヘッジファンドの仕事に最も必要なものは何かと尋ねると、常識的な物の値段と過大過小評価されている物の値段を比べられること、つまり常識的な感覚が必要だと教えていただきました。仕事関係の話の後は、受験のこと、恋愛のことや将来の仕事のことなど、とても打ち解けて話すことができました。今回、経済金融の研修や語学の研修を兼ね合わせたニューヨーク研修旅行の中で、金融業を担う人々から経済金融の知識や社会の常識だけでなく、向上心やコミュニケーションの大切さを学ぶことができました。見識を広げ、将来について改めて考えることができました。

このような素晴らしい研修をさせていただいて本当にありがとうございました。



参加者アンケート Participant Questionnaire



応募してきた全ての高校生を対象にして、エコノミクス甲子團に参加する前と後で、同じ内容のアンケートに答えてもらいました。多くの問題で正解する割合が増加しており、エコノミクス甲子團に参加したことで経済の知識を身につけてもらえたことが読み取れます。22問のアンケートのうち特に変化の見られた5問をピックアップいたします。

No.	問題文	選択肢	参加前%	参加後%	前後変化%
1	日頃新聞やニュースに接していますか?	①新聞の経済欄まで目を通す。	19%	26%	7%
		②新聞は見るが、経済欄までは見ない。	31%	29%	-3%
		③テレビやラジオのニュースは視聴するが新聞は読まない。	43%	40%	-3%
		④ニュースはほとんど知らない。	7%	5%	-2%
2	家計が支払う社会保険料とは、	①生命保険や火災保険の掛け金のこと。	28%	28%	0%
		②自分の老後のために積み立てる積立金のこと。	11%	6%	-5%
		③電気、ガス、水道等の公共料金の支払いのこと。	12%	5%	-6%
		④年金や健康保険の給付を受けるために政府に納めるお金のこと。	49%	61%	12%
3	通常、景気の後退期に増加するのは、	①失業者数	80%	90%	10%
		②政府収入	7%	1%	-6%
		③個人消費	7%	5%	-3%
		④企業投資	5%	4%	-2%
4	わが国の自動車・ビール・板ガラスのように、少数の有力な企業が、その産業を支配する市場は、	①寡占市場	68%	76%	8%
		②独占市場	24%	21%	-3%
		③自由市場	6%	1%	-5%
		④統制市場	2%	2%	0%
5	貿易が拡大すると、世界的に	①生産が増す。	53%	61%	8%
		②失業を生み出す。	35%	29%	-6%
		③生活水準が下がる。	7%	5%	-3%
		④富の格差が広がる。	5%	5%	-1%

※問2・3・4・5は正解の選択肢に色をつけてあります。



事前学習教材紹介

エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。
事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒たちも大会前にしっかりと勉強してくれています。
単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。



- **ファイナンス基礎**
(作成:金融知力普及協会 寄贈:シティバンク銀行)
シティバンク銀行ホームページ
<http://www.citibank.co.jp/ja/>



- **ビギナーズのためのファイナンス入門**
(作成:寄贈:金融広報中央委員会)
金融広報中央委員会ホームページ
<http://www.shiruporuto.jp/>



- **これであなたもひとり立ち**
(作成:寄贈:金融広報中央委員会)
金融広報中央委員会ホームページ
<http://www.shiruporuto.jp/>



- **ライフステージで学ぶ銀行**
(作成:寄贈:全国銀行協会)
全国銀行協会ホームページ
<http://www.zenginkyo.or.jp/>



- **ローン&クレジットのABC**
(作成:寄贈:全国銀行協会)
全国銀行協会ホームページ
<http://www.zenginkyo.or.jp/>



- **そんぼのホントフレッシュャーズガイド**
(作成:寄贈:日本損害保険協会)
日本損害保険協会ホームページアドレス
<http://www.sonpo.or.jp/>



- **株式会社制度と証券市場のしくみ**
(作成:寄贈:日本証券業協会)
日本証券業協会ホームページアドレス
<http://www.jsda.or.jp/>



- **生活防衛のための災害対策ガイドブック**
(作成:寄贈:日本ファイナンシャル・プランナーズ協会)
日本ファイナンシャル・プランナーズ協会ホームページアドレス
<http://www.jafp.or.jp/>



- **ほけんのキホン**
(作成:寄贈:生命保険文化センター)
生命保険文化センターホームページアドレス
<http://www.jili.or.jp/>

メディア掲載実績

大会名	取材(TV)	取材(新聞)	取材(その他)	大会名	取材(TV)	取材(新聞)	取材(その他)
北海道	北海道放送	ニッキン		静岡	静岡第一テレビ	静岡新聞	
	札幌テレビ放送	北海道新聞			静岡朝日テレビ	朝日新聞	
	北海道文化放送					中日新聞	
宮城		日本経済新聞社仙台支局			ニッキン		
秋田	NHK秋田放送局	朝日新聞		愛知	テレビ愛知		
	秋田放送	秋田魁新報			名古屋テレビ放送		
		北羽新報					
千葉	千葉テレビ放送	千葉日報		三重	三重テレビ放送	中日新聞	
		毎日新聞			東海テレビ放送	朝日新聞	
		日刊工業新聞			NHK津放送局		
		読売新聞			ZTV		
		朝日新聞					
神奈川	テレビ神奈川	神奈川新聞		奈良	奈良テレビ放送	奈良新聞	
	ケーブルシティ横浜						
富山	北日本放送	北日本新聞		中国	山陽放送	山陽新聞	瀬戸内経済レポート
	富山テレビ放送	富山新聞			岡山放送	ニッキン	おかやま財界
	チューリップテレビ				テレビせとうち		
			NHK岡山放送局				
石川	NHK金沢放送局	北國新聞		徳島		徳島新聞	
	北陸放送						
	石川テレビ放送			香川	NHK高松放送局		香川経済レポート
福井	福井テレビ	福井新聞		テレビせとうち			
	福井放送			瀬戸内海放送			
山梨		山梨日日新聞		愛媛	南海放送	愛媛新聞	
		毎日新聞		あいテレビ			
		産経新聞					
		朝日新聞		九州	福岡放送	金融経済新聞	
岐阜	名古屋テレビ放送	中日新聞		長崎		長崎新聞	
	中部日本放送	岐阜新聞					
	中京テレビ放送	読売新聞		鹿児島	南日本放送	南日本新聞	
	テレビ愛知	朝日新聞		鹿児島放送	ニッキン		
	岐阜放送	毎日新聞		鹿児島読売テレビ			
	中部経済新聞		鹿児島テレビ放送				
			沖縄	沖縄ケーブルネットワーク	琉球新報		
					沖縄タイムス		

Special Thanks

(順不同)

内閣府の皆様
文部科学省の皆様
金融庁の皆様
週刊エコノミストの皆様
ブルデンシャル ジブラルタ
ファイナンシャル生命保険株式会社の皆様
シティバンク銀行株式会社の皆様
ラッセル・インベストメント・グループの皆様
日本ファイナンシャルアカデミー株式会社の皆様

一般社団法人 全国銀行協会の皆様
社団法人 日本証券業協会の皆様
NPO法人 日本ファイナンシャル・
プランナーズ協会の皆様
金融広報中央委員会の皆様
社団法人 日本損害保険協会の皆様
公益財団法人 生命保険文化センターの皆様
イー・アクセス株式会社の皆様

愛知銀行の皆様
沖縄銀行の皆様
静岡銀行の皆様
千葉銀行の皆様
西日本シティ銀行の皆様
北海道銀行の皆様
りそな銀行の皆様

秋田銀行の皆様
鹿児島銀行の皆様
七十七銀行の皆様
千葉興業銀行の皆様
百五銀行の皆様
北國銀行の皆様

阿波銀行の皆様
近畿大阪銀行の皆様
十八銀行の皆様
中国銀行の皆様
百十四銀行の皆様
山梨中央銀行の皆様

伊予銀行の皆様
埼玉りそな銀行の皆様
十六銀行の皆様
南都銀行皆様
北陸銀行の皆様
横浜銀行の皆様

各地方大会、全国大会でのボランティアの皆様

■審判・講師をつとめていただいた皆様 (肩書きは当時)

カーボンフリーコンサルティング株式会社 代表取締役CEO 中西 武志 様
ブルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社 執行役員 竹田 雅彦 様
シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社
コーポレート・アフェアーズ部 コーポレート・シチズンシップ部長 内藤 和美 様
ラッセル・インベストメント株式会社 代表執行役員兼副会長 加藤 正純 様
経済ジャーナリスト 高橋 伸子 様
金融知力普及協会 理事長 金子 昌資
金融知力普及協会 理事 今井 激
金融知力シニアインストラクター 牛山 吉彦

■学生ボランティアスタッフ

岡辺 公志 様	坂野 慶太 様	末成 あゆみ 様	中里 静 様	又吉 康紀 様
亀岡 孝展 様	佐々木 翼 様	高倉 那奈 様	中村 翔太郎 様	御手洗 伸 様
木原 健太郎 様	塩越 希 様	田中 聖也 様	西川 陽之 様	安田 吉孝 様
小林 大城 様	重網 孝祐 様	戸澤 法也 様	久本 晃義 様	安野 貴博 様
渡邊 幸輝 様				

ご協力を頂いた全ての皆様、参加して下さった全ての高校生たち



<http://www.apfl.or.jp>

特別協賛



Prudential

ブルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル
生命保険株式会社

協賛

citibank®

Russell
Investments

ラッセル・インベストメント・グループ